

# はじめに

「話し合ったり論じあったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。」（ルカの福音書24章15節）

2021年度はコロナ対応に揺れた一年であり、オンラインと対面授業そしてハイブリッドと状況に応じて使い分けながら大学の教育を維持してきた。そのためにオンライン授業の研修を喫緊の課題として続ける必要があった。また、それだけに毎週続けるコイノニアによる交わりを充実させたく外部講師による研修も行った。紀要合評会は興味深い研究発表を聞いてディスカッションすることができた。

第1回ファカルティ・フォーラム（6月22日）は、立山剛職員が講師となり、オンライン教育に取り組む上で派生した著作権の問題を確認し、TCU オンラインをいかに活用していくかについても学んだ。

夏期教員研修会(8月19日)には、福田崇先生（国際ウィクリフ聖書翻訳協会宣教師）をお招きし、「TCUの学生・教職員のコイノニアによる豊かな実りを」と題して講演をしていただいた。福田宣教師はアジアでの宣教の働きの中で小人数による霊的な交わりの豊かさを学んでこられた経験を踏まえ、TCUの課題に即して語ってくださった。

第2回ファカルティ・フォーラム（12月14日）は紀要合評会を行った。2020年度の『キリストと世界』に寄稿された論文の中で、デイビッド・S・サイツマ先生の論文「心の論理ー初期改革派正統主義における感情の分析」に須藤英幸先生が講評をされ、歴史神学を専門領域とされるお二人の知見に触れることができた。もう一本も日本の教会史の領域で、草創期の東京キリスト教学園に多大な貢献のあったフォックスウェル先生によるオーラル・ヒストリー（口述歴史）が取り扱われ、本学の自分史をふりかえる時となった。岩田三枝子先生による「フィリップ・ロス・フォックスウェル先生によるオーラル・ヒストリーの翻訳と解説ー日本宣教30年をふりかえってー」の発表に対して、日本基督教史がご専門の山口陽一学長が講評をしてくださった。

第3回ファカルティ・フォーラム（1月21日）は、コロナ禍の中で続けられてきた教務のシステム改編に関わる研修を行った。「学生情報システムの操作と活用」をテーマとして、立山剛職員と(株)リアセックの担当者が講師を務められた。

なおもコロナの中を手探りで進まねばならない時期が続くけれども、共に歩んでくださるキリストにより頼みつつ課題解決や研究に取り組んでいきたい。

学部長（FD委員長） 大和 昌平

# 目 次

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会規程 .....	1
2021年度FD 委員会メンバー表、FD 活動一覧 .....	2
第1回ファカルティ・フォーラム (6月22日).....	3
「オンライン教育における著作権」	
「TCU オンラインの活用」	
講 師：立山 剛	
教員研修会 (8月19日) .....	15
「TCU の学生・教職員のコイノニアによる豊かな実りを」	
講 師：福田 崇	
第3回ファカルティ・フォーラム (1月21日) .....	41
「学生情報システムの操作と活用」	
講 師：立山 剛	
株式会社リアセック	
付録.....	63
授業評価	
学生による授業評価アンケート (2021年度) 実施要領	
教員による授業相互評価 (2021年度) 評価項目	
案内ちらし	
第2回ファカルティ・フォーラム (12月14日)	

# ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

2008年（平成20年）9月9日施行

（目的）

第1条 東京基督教大学は、建学の精神に基づき、教育理念の実現に向け、教育活動の継続的な改善と支援を目的として、ファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という）を推進するため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FD活動を推進するための組織的な取り組みを行う。

- （1）教育研究活動のための調査および支援
- （2）授業内容・方法の改善・向上のための計画・実施
- （3）新任教員研修
- （4）FD活動の点検及び評価
- （5）FD活動報告書の刊行
- （6）FD活動に関する情報の収集と提供
- （7）その他FD活動の目的達成に必要な活動

第3条 （削除）

（委員会の構成員）

第4条 本委員会の構成員は、学務会議の構成員とする

（委員長）

第5条 委員会の委員長は、学務会議の議長とする。

（会議）

第6条 委員会は、適宜会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員会は、委員の過半数をもって成立し、審議事項の決済には、出席委員の過半数の賛成を必要とする。

（事務担当者）

第7条 委員会は、本学におけるFD諸活動を実施するために、事務担当者を置く。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、委員会の提案に基づき、教授会の議を経て学長が行う。

附則 [2008年（平成20年）9月9日制定]

この規程は、2008年（平成20年）9月9日から施行する。

附則 [2012年（平成24年）1月10日改正]

この規程は、2012年（平成24年）4月1日から施行する。

附則 [2015年（平成27年）1月13日改正]

この規程は、2015年（平成27年）1月13日から施行する。

附則 [2016年（平成28年）1月12日改正]

この規程は、2016年（平成28年）1月12日から施行する。

附則 [2020年（令和2年）2月4日改正]

この規程は、2020年（令和2年）2月4日から施行する。

附則 [2021年（令和3年）3月2日改正]

この規程は、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

## 2021年度 ファカルティ・ディベロップメント委員会構成員

大 和 昌 平 (委員長)

中 澤 秀 一

菊 池 実

岩 田 三枝子

岡 村 直 樹

伊 藤 明 生

## 2021年度 F D活動一覧

開催日	F D活動	講師・発題者	場 所	対 象	参加者数
2021年 6月22日	第1回 Faculty Forum 「オンライン教育における著作権」 「TCU オンラインの活用」	立山 剛	zoom	全教職員 博士課程学生	45名
2021年 8月19日	教職員研修会 「TCUの学生・教職員のコイノニアによる 豊かな実りを」	福田 崇	zoom	全専任教職員	38名
2021年 12月14日	第2回 Faculty Forum 紀要合評会	デイビッド・ S・サイツマ 岩田三枝子	zoom	全専任教員 博士課程学生	21名
2022年 1月21日	第3回 Faculty Forum 「学生情報システムの操作と活用」	立山 剛	zoom	全専任教職員	27名

# オンライン教育と著作権

6/22 第1回Faculty Forum



## タイムライン

2

- 15:50～15:55 開会
- 15:55～16:55 オンライン教育と著作権
- 16:55～17:05 休憩
- 17:05～18:05 TCUオンラインでの成績評価方法
- 18:05～18:10 閉会

## 改正著作権法の概要

3

文化庁資料参照

[https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/bunkachoshi\\_ryo\\_20210129.pdf](https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/bunkachoshi_ryo_20210129.pdf)

## 2021年度大学の対応

4

1. 補償金の支払い：計上した予算額180,000円
2. 料金の計算方法
  - ・ 授業：学生（外部受講生含む）一人当たり720円
  - ・ 公開講座の開催数

## 公衆送信の範囲

5

1. 国内外すべての著作物が対象
2. 既に誰も見れる状態でネットに公開されているブログや資料を画面共有すること

## 授業の範囲外

6

1. オープンキャンパスの模擬授業
2. 大学のFD/SD
3. 大学のサークル活動
4. 授業の資料であっても引用の必要性がないアニメのキャラクター

1. 授業の参加者のみが利用できるようにパスワード等の制限が必要。原則は受講者の人数のみ。
2. 授業時間外でもいつでも見れる状態にすることは不適切。事前事後学習のためであれば問題ない。

1. 授業に関わる部分のみ
2. 書籍、テレビ番組、映画、音楽等の著作物全体を公衆送信する場合は許諾が必要か確認する
3. リアルタイムの同時配信において、授業に必要な部分のみ公衆送信することは制度の対象であるが、いつでも見れるようにサーバーに保存することは対象外となる
4. 複数回の授業で全コンテンツを利用する場合も許諾が必要か確認する
5. 学生が購入していない問題集の公衆送信

## 利用に関するグレーゾーン

9

1. コピーガードがかかっている著作物
2. 個人契約において利用可能な著作物
3. 「複製、無断使用禁止」と明記してインターネットに公開している著作物

## グループワーク

10

1. 4人グループになる
2. 時間：20分
3. 授業での著作物の利用状況を共有する
4. 著作物を利用する上で工夫していることがあれば共有する
5. 著作物の利用方法に課題がある場合は、解決方法について意見交換する
6. 各グループで出た質問や意見についてジャムボードの付箋紙に書き込む

## 最後に



今回、解決できず疑問に残った質問に関しては直接、管理団体のSatrusに確認し、教職員の皆様に共有します。

# TCUオンラインからの成績評価

6/22 第1回Faculty Forum



## 本日の内容

2

1. 点数の入力方法
2. 成績評価システムの今後の対応
3. システム全体の今後の予定

1. 採点システムを学務システムからTCUオンラインに移行

1. 成績評価の変更（再掲）

5段階（2004～2020入学まで）						11段階（2021入学～）					
LG	GP	素点	幅	合否		LG	GP	素点	幅	合否	
A+	1	4.00	100-90	11	合格	A	1	4.00	100-95	6	合格
A	2	3.00	89-80	10	合格	A-	2	3.70	94-90	5	合格
B	3	2.00	79-70	10	合格	B+	3	3.30	89-87	3	合格
C	4	1.00	69-60	10	合格	B	4	3.00	86-83	4	合格
F	5	0.00	59- 0	—	不合格	B-	5	2.70	82-80	3	合格
						C+	6	2.30	79-77	3	合格
						C	7	2.00	76-73	4	合格
						C-	8	1.70	72-70	3	合格
						D+	9	1.30	69-65	5	合格
						D	10	1.00	64-60	5	合格
						F	11	0.00	59- 0	—	不合格

## 新旧成績評価の適用

5

1. 新評価：総合神学科1年、大学院1年、専攻科1年
2. 旧評価：神学部、大学院、専攻科の2年生以上  
(2021年度入学の編入生は旧評価)

## 今後の対応

6

1. 表示科目を絞り込む
2. 成績評価方法を旧カリと新カリで学生に応じて表示する
3. 複数科目に成績を送信する

## 1コース複数科目

7

1. 英語
2. 新カリと旧カリの同時開講科目
3. 音楽科目

## 今後の対応

8

成績送信については数日中にアップデート予定ですが、成績送信が可能になった時点で教員各位にお知らせします。

1. 成績評価結果の確認ページ
2. 出欠状況の確認
3. TCUポートフォリオの年間評価



2021年春  
**コイノニア**  
振り返りアンケート結果報告

2021年8月19日  
教職員研修会報告  
中尾未踏

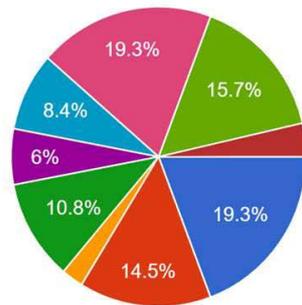


## アンケート概要

- **対象**：コイノニア参加対象の全学生
- **期間**：2021年6月29日～7月7日
- **回答**：83名／171名（回答率：49%）

### 学科・専攻 Subject・Major

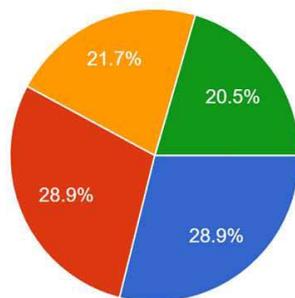
83 件の回答



- 総合神学科 Theological Studies (2021 Enrollment)
- 国際キリスト教福祉学科 国際キリス...
- 国際キリスト教福祉学科 キリスト教...
- 神学科 Theological Studies
- 神学科 ACTS-es Theological Studies/...
- 神学科 神学専攻 (シニアコース含む...
- 神学科 教会教職専攻 Theological Stud...
- 大学院 神学研究科 Graduate School...
- 教会音楽専攻科 Postgraduate Certific...

### 学年 School Year

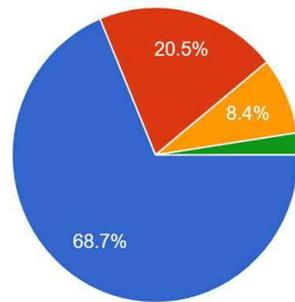
83 件の回答



- 1 年次 1st Year (Freshman)
- 2 年次 2nd Year (Sophomore)
- 3 年次 3rd Year (Junior)
- 4 年次 4th Year (Senior)

1. 春学期のコイノニアにどれくらい参加しましたか？ How much did you participate in the Spring Trimester Small Group Chapel?

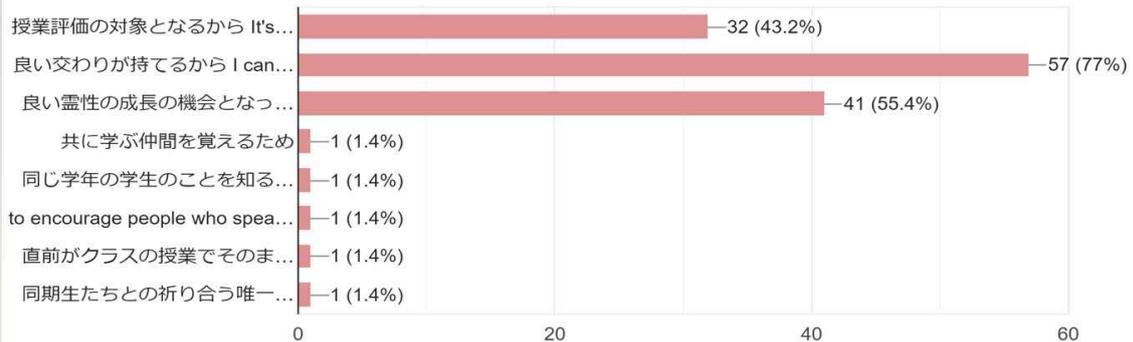
83 件の回答



- 毎週参加した I participated every week.
- だいたい参加した I participated most times.
- たまに参加した I participated some times.
- まったく参加していない I didn't participate in the Small Group Chapel at all.

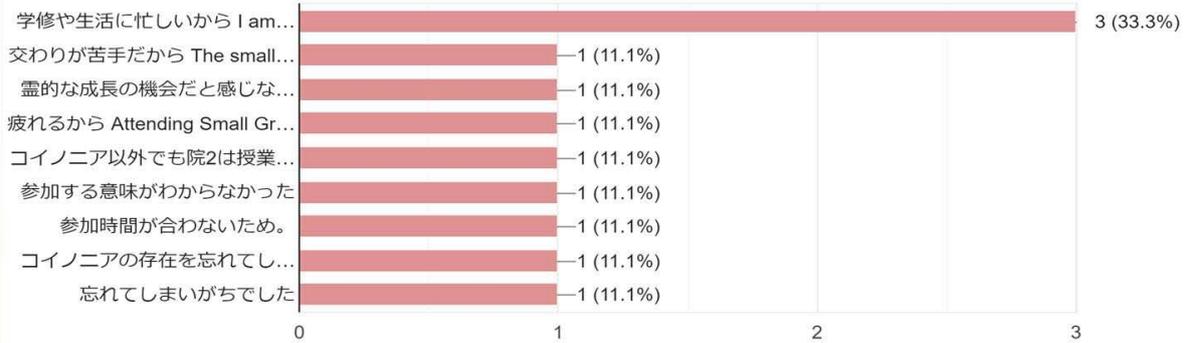
1. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 1. (Multiple Answers Allowed)

74 件の回答



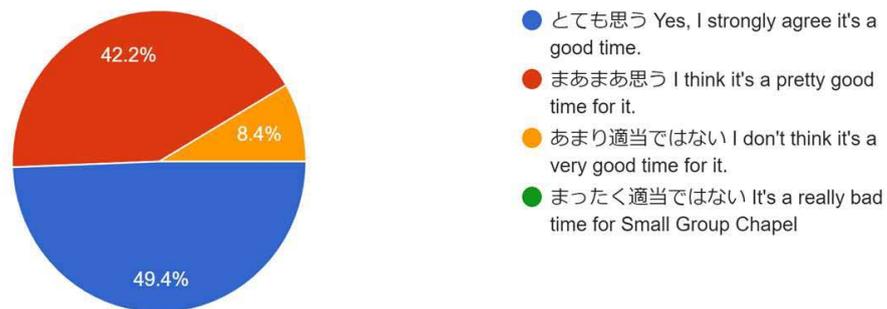
1. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 1. (Multiple Answers Allowed)

9 件の回答



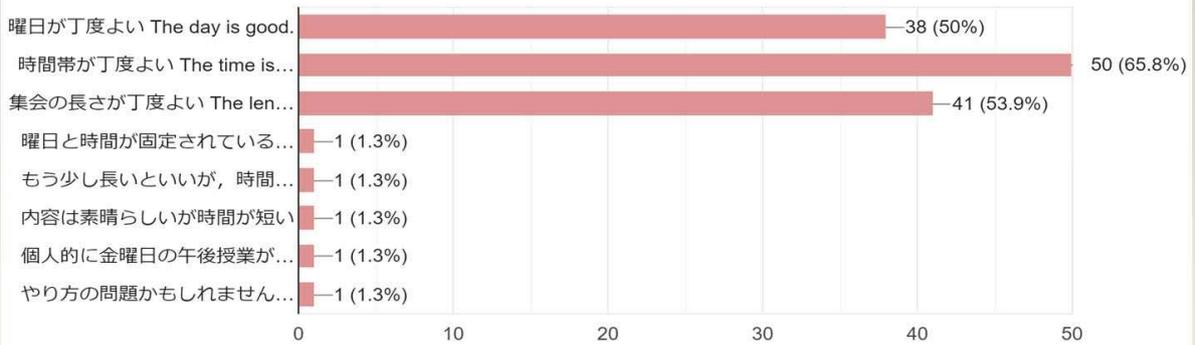
2. コイノニアの時間 (毎週金曜日11:20-11:50の30分間) は適当だと思いますか The current Small Group Chapel Time Slot is every Friday from 11:20-11:50. Is this a good time?

83 件の回答



2. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 2. (Multiple Answers Allowed)

76 件の回答



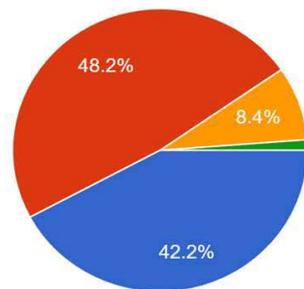
2. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 2.(Multiple Answers Allowed)

7 件の回答



3. コイノニアのプログラムには満足していますか？ Are you satisfied with the Small Group Chapel program?

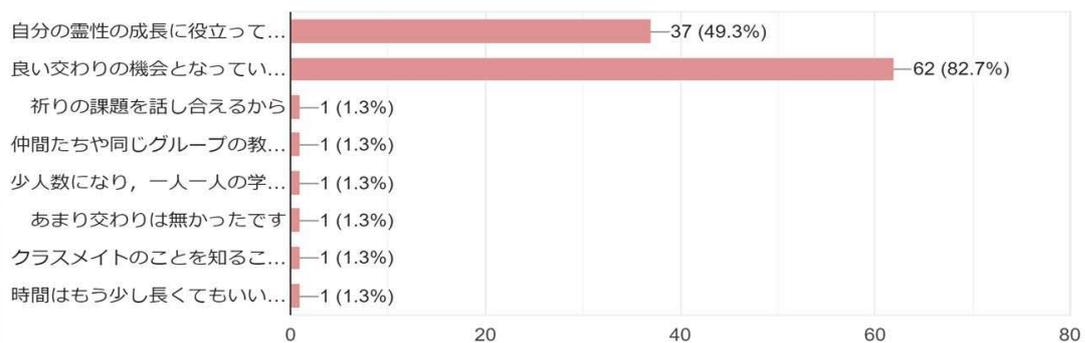
83 件の回答



- とても満足している Yes, I'm very satisfied with it.
- まあまあ満足している Yes, I'm pretty satisfied with it.
- あまり満足していない No, I'm not very satisfied with it.
- まったく満足していない No, I am completely unsatisfied with it.

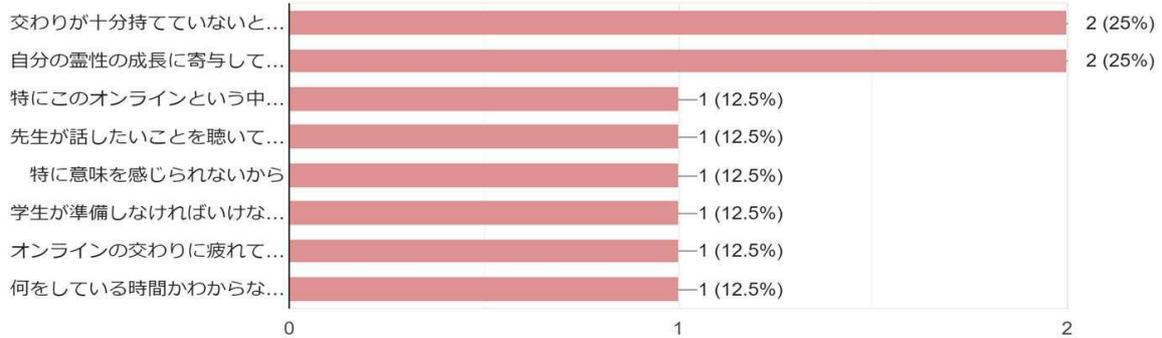
3. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 3.(Multiple Answers Allowed)

75 件の回答



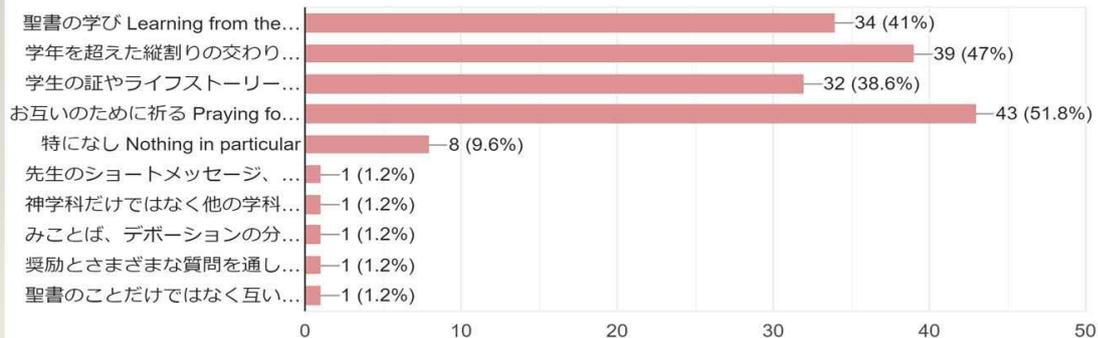
3. の理由をお答えください。(複数回答可) Please explain the reason for your answer to Question 3. (Multiple Answers Allowed)

8 件の回答



4. 今後コイノニアで行いたいことをお答えください。(複数回答可) Please choose all options that you would like to see happen at the Small Group Chapel (Koinonia) after this.

83 件の回答



## 5. その他、コイノニアについての感想や要望など自由に書いてください。

Do you have any other thoughts or requests concerning Small Group Chapel (Koinonia)?

### 〔ポジティブな意見〕

- 楽しかった！とても良い時間だった！
- コイノニアが貴重な交わりの時間になっている！
- 先生方がプログラムを工夫していて良いと思う！
- 先生の短い御言葉の分かち合いがよかった！

### 〔改善のための手がかり〕

- 他の学年や学科専攻との交わりを！
- もっと深い交わりや霊性の涵養となる内容を！
- 一人だけでなく全体が話しやすい雰囲気になると良い！
- 昼休憩の時間が短くなってしまう。

## “ポジティブなコメント”

- 良い交わりの時間を持つことができました。毎週、祈り合う時間を持つ事は良いと思いました。
- とても良いと思う。
- 多くの仲間と交わりを持つことができうれしいです。
- 先生が多様なプログラムを研究してやっているの、良いと思います。
- いつも良い祈りの機会としてコイノニアを準備していただきありがとうございます！！スプリングリトリートや寮生活が無いので、ぜひコイノニアの時間で先輩との縦割りの機会を持って欲しいです。
- オンラインでの授業が多い中、離れたところにいる同期との交わりの時を持つ時間はとても貴重だと感じました。これからもお互いのことを知り、祈り合える仲間として交わりの時を継続していけるといいです。

- クラスのみんなの証を聞く時間がとてもよかったです。コイノニアは貴重な時間になっています。
- コロナの大変な時期の中でも、交わりができてよかったです。
- コイノニアを通して、普段話すことがないであろう人たちと話す機会が与えられました。
- 限られた時間なので、だらだらしなくて良いと思いました。
- 今学期のコイノニア、とても良き時間でした。今後も、よりお互いの状況を知り合え、祈り合え、励まし合えればと思います。
- 楽しかったです。
- コイノニアでは、皆がオンラインだったので、分け隔てなく交わりを持つことができ、とっても楽しみな時間でした。ありがとうございます！
- 毎回、短い聖書の箇所と先生の解釈や説明などが楽しみでした。
- 秋学期より極力参加いたします。

## “改善のための手がかりとなるコメント”

- 私は神学科2年生ですが、同じ学年でも国キ専攻の学生と交わる事が少ないので、国キ専攻との交わりと祈りの場を設けて欲しいです。
- 2年生神学科はグループを二つに分けて分散してコイノニアを持っていたので、皆が一つになる時が学期に一回くらいはあっても良いかと思いました。
- コイノニアなので、出来るだけ多くの出席者と交流ができたらいと思います。
- コロナの影響で同じ専攻、同じ学年と交わる機会があまりにも少ないことを感じています。コイノニアは貴重な交わりの時間です。ですが、あまりにも時間が足りません。このコイノニアの時間や内容はそのままにして、それ+少人数で、深く、自由に交わる機会がほしいです。
- 神様の恵みの分かち合いをしていけたら、いいと思いました。
- オンラインなので、できることに限界はあると思うが、それぞれの神様との歩みをもっと知る機会があったら嬉しい。

- 義務参加であるなら、交わりよりも学びや靈性にプラスとなる有意義な時間であることを継続して欲しい。
- 毎週スモールグループの中で、一人ずつインタビューをしながら自己紹介をしましたが、クラスメイトのことを知ることができ良かったと思います。ただ皆さん緊張しているのか、遠慮しているのか、先生がインタビューし、答えるという形で、まだ会話が飛び交う雰囲気にはなっていません。同じスモールグループで続けていくことを通して、主にあって、もっと深く温かい交わりになることを願っています。
- 教職生は金曜日に神学演習があり、朝に語学があり、3, 4時間目に必修があった。そこにコイノニアがあり、学生が事前に準備が必要なものを行うのは、気持ちが休まらない。
- 私は食堂をとっているのですが、欠食している人はご飯の準備があるので大変そう。
- 単位制になった事で、強制感が生まれ、自由が無くなった気がします。少し、寂しい…かな…

- 時間も一ちょいあっても良いかも。
- Maybe add some Japanese students with ACTS=ES small group, who can speak English to add more international flavor to Koinonia.
- もっといろいろな人が集まってくれたら楽しいかもしれないなと思いました。
- 誰かが一方的なスピーカーになることのないよう、全体が話しやすくなるのもっとよくなると思います。

## このアンケートから見えてきたこと・・・

- ◆ 全体的に、学生たちがコイノニアをよいもの、よい交わりの機会として受け取っている。
- ◆ 学生たちの受け止め方やどのようなプログラムを求めるかに多様性がある。
  - ⇒より御言葉の分かち合いや霊性の涵養を求める学生がいる一方で、より交わりを求める学生もいる。

### 【今後の課題として】

- 学科や学年を超えた縦割りの交わりを求める声が多く聞かれた。
  - ⇒どのような形で縦割りの要素を加えていけるかが今後の課題

はじめに：

・初めの一歩が大切です。個々の信仰者でも、個々の地域教会でもそうです。最初の段階ではデボーション訓練、小グループで分かち合い、み言葉を実践することを身に付けます。そのステップをスキップしているとすれば、原点に戻ることが大事だと思います。鉄は熱いうちに打て、と言いますが、信仰生活の初期段階で弟子としての基本的な訓練が大事だと思います。

・多くの聖書学校や神学校は、説教者/牧会者を生み出すカリキュラムを組んでいると思います。ギリシャ語、ヘブル語、釈義、説教論、牧会学などです。人を育てること、人を祈りの人、仕える人、共同体の人に育てることが弱いと思います。今回このような機会が与えられたことを心から感謝しています。

## ① 現状の課題に向き合う

◎ロナガン（來住英俊訳）の四つのフェーズ：

- A. Be Attentive（注意深くあれ）（情報=information）  
世界（日本、教会）の事象に広く目を向けよ。
- B. Be Intelligent（深く考える人であれ）（理解=understanding）  
個々の事象間の関連を理解し、現実を包括的に把握するように努めよ。
- C. Be Realistic or Reasonable（妄想を警戒せよ）（判断=judgement）  
いちおう得られた現実の理解について、「本当にそうなのか」と問え。
- D. Be Responsible（責任ある行動をなせ）（選択=decision）  
現在の状況に、良い変化をもたらせる現実的な行動を選択して、それを実行せよ。

## ▼私はこれを「衰退」と呼ぶ

事象を正しい名で呼ばないことは、暗愚のはじまりである。アジア太平洋戦争での日本軍は、全滅を「玉砕」、敗退を「転進」と呼んだ。戦後の私たちは、一九四五年の敗戦を「終戦」と呼んできた。冷厳な言葉を避けて、聞きなりの良い言葉を用いることの弊害は多くの人々が指摘している。今の日本の教会の現状も、正しい名前と呼ぶ必要があるだろう。私も今まで、抵抗感の強い言葉を避けて、「行き詰まり」とか「閉塞」とか言ってきた。しかし、今は「衰退」(decline)と呼ぶべきだと思っている。日本の教会は低空飛行をしているのではなく、はっきり下降しているのだ。

信者数は長い間、四十万人あたりで推移しているが、年齢構成は逆ピラミッドであり、たぶん、さらに逆ピラミッド化している。一人ひとりを見れば、立派な信仰をもった、神の喜ばれる信者が多数いるのかもしれない。しかし教会とは、人間の歴史を、人間の体をもって生きる存在である。確固とした信仰があるとしても、信者たちが高齢になり、体力が衰えれば、教会共同体としては衰えていくのである。信者数が高齢化するにつれて、教会維持費を以前のように納めることはできなくなる。活動力のある信者の数が減り、活動の資金が乏しくなっていく。量など問題ではないと言えるくらいに、教会（カトリック信者）の質は高いと言う人はいないだろう。これを「衰退」と呼ばないで、いったい何と呼ぶのか。

【キリスト者と思想の交差点 133回：もう、衰退と呼ぶべきではないか  
來住英俊司祭（御受難会司祭、1951年滋賀県生まれ）カトリック生活に連載】

・ノンフィクション作家の柳田邦男さんは、「明日への言葉：柳田邦男」というブログがあります。その中に「人は“物語”を生きている 前編」（2020年9月11日）とその後編（2020年10月9日）があります。その中の言葉です。

「現場を大事にしたい、現場を見なければ自分の思想は作れない、という事ですが、深いところに脈々と今に伝わっていることが見えてこない、今まで見てきた事実とは表面的なものでしかないのではないか、もっと心の深いところにあるものを見なければいけないのではないか。」

◎（中川神父が任命されて着任した教会では）残された信徒は少なくなった司祭・修道者に強く依存し、大多数は高齢で、この一年間だけでも、高齢のために教会に来られなくなった人が何人もいました。ヨーロッパ文化を背景に導入されたキリスト教会は破綻しかかっているように見えます。

私は司祭として過ごした人生を感謝しています。キリスト教信仰は私を豊かにしてくれたからです。ところが、多くのカトリック信徒にはそうでないらしいと怪しむようになりました。「ただ信じればいい」と言われ、結局何も分からぬまま忙しい日常に追われ、時間だけが過ぎ、周囲にも次の世代にも信仰を伝え得なかったのが、戦後の日本の教会かもしれません。破綻しかかっているのなら、まず、自分の信仰を本気で振り返るべきかもしれません。

【次の世代に 中川明（大阪教区司祭） 福音宣教2012年5月号】

・「衰退」「破綻」という厳しい言葉が使われています。カトリックのお二人の司祭です。一人は修道司祭、一人は教区司祭です。一体どうなっているのか、

日本のプロテスタント教会・福音派の教会はどのような状態にあるのか？正直に振り返って、表面的なことではなく、どこがボタンの掛け違いであったのかを見極めることが大事だと思います。同時に、主が世界で何をしてこられたのか、しておられるのかを知る努力も大事だと思います。

戦後の福音派の振り返りのためには、次の文書を提供します。

・戦後の福音派に影響を与えてきた様々な考え方2（戦後の占領軍による支配、その中での福音宣教、1教会1牧師1会堂のシステム、お店を開いて待っているシステム、自分で考えてこなかった。）

また世界で主が何をしておられるのかについては、次の文章を提供します。

・幌向子羊教会セミナー（信徒、聖書、聖霊、小グループ、聖徒を育てる、包括的宣教、信仰者の成熟、言葉による弁明）

「今ヨーロッパでは司祭志願の神学生の数が減っています。これでは将来礼拝を提供できなくなると嘆くより、また神学生の数が増えるよう神に祈るより、このような困難に直面した時は、問いを正しく立てることが一番大切です。間違った問い方に対して適切な回答は得られません。私たちが一生懸命祈っているのに、召命（司祭を志願すること）が減る一方なのはなぜか、という問いは間違った問い方でしょう。この召命の減少をもって神は私たちに何を言おうとされているのか、というのが正しい問い方で、正しい問いには答えの半分が潜んでいるといわれます。

答えの方向づけは六十年前の第二バチカン公会議が、すでに示しています。それは、聖職者中心の教会の時代が終わろうとしている、ということです。教会改革を目指した十六世紀後半のトレント公会議では、改革を促進するため司祭にしっかりと教育をすることが考えられ、神学校が各地に設置されました。司祭養成改革の実りが現れるまでに百年かかりましたが、教会は立ち直りました。

今日の私たちは短気で、第二バチカン公会議から六十年たった今、まだ実りが見えないことにあせっています。しかし個人の心の営みの傾向は数十年程度で変化しますが、言語や文化、社会の傾向はゆっくりと変わります。聖職者による教会の文化体制は四百年間有効でした。しかしその時代は終わろうとしています。神が私たちに言おうとされているのは、これからは教会についての責任を司祭と共に一般信徒も担わねばならない、教会が何をしてくれるか待つだけでなく、自分たちが教会において何ができるかを問わねばならない、ということでしょう。それは第二バチカン公会議のメッセージでもありました。司

祭だけにすべてを期待するのではなく、洗礼の秘跡を通して信者が共有している共通の司祭職を男女ともに生かすこと、教会刷新の息の長い活動に信者が参加しその責任を担っていくことを、神は私たちに示されているのではないでしょうか。」

黄金のプラハから来たイエズス会士 ルドヴィーク・アルムブルスター著  
281-282 頁

トレント公会議 (1545~1563) は、対抗宗教改革の公会議とされています。今ではカトリック教会は、その当時の教会はひどい状態であったことを認めています。多くの教令が採択されましたが、典礼の刷新と司祭の教育の刷新が目指されました。第二バチカン公会議は、再度大きな方向転換をして、聖職者中心の教会からすべての信仰者の交わりの教会に大きく舵を切りました。

## ② 御言葉に向き合う信仰生活

◎日本の教会の現状を、高齢化・過疎化だけで説明できないと思います。來住神父の「衰退」、中川神父の「破綻」を受け止めて、そこに至った道筋を振り返ることが大事だと思います。聖書に向き合って生きてこなかった、すなわち聖書の全体を心の深くに入れず、入口で留まっていたのではないのか？信仰が生きることに繋がっていなかったのではないのか？弟子を作りなさいと言われたイエスさまのご命令を受け止めて、弟子を作る弟子を生み出すことが弱かったのではないのか？「教会員」を生み出し、教会のイベントを助けることで使命を果たしたと思ってこなかったか？牧師をはじめとして、信徒も一人でやろうとして、共同体性が弱かったのではないのか？群れの形成の最初の大事なステップである小グループ共同体の段階をスキップしてきたのではないのか？

◎終末時代の信仰生活 (続) 2015 年 4 月 青 山 玄

今 84 歳の筆者は、80 歳になった頃から次第に視力や聴力の衰えを痛感するようになり、祈りの言葉を読み違えたり、電話の声が聴き取れずに用件をファックス便で知らせてもらったりしたことが幾度もある。肉体の老衰に起因するこのような不調は今も続いており、筆者は、自分の心がこのようにして幼児の心に近づいて行くことに多少の喜びも感じている。大学を定年退職して既に十数年になるし、大学や後輩教員との関係も薄れているので、これからは何よりも無事あの世に行くことを願い求めつつ生きよう、と思うようになっている。そしてマタイ 18 章 3 節に読まれる、「あなたたちは心を入れかえて幼な子のように

にならなければ、天の国には入れない」という主のお言葉を心に銘記しつつ、日々「自分を低くして」幼な児のような感謝と信頼の心で天地万物を眺め、同じその心で誰にでも接するよう心がけている。明治時代のラゲ神父訳の新約聖書では、主のこのお言葉が「汝等若(モシ)翻(ヒルガエ)りて幼児の如くに成らずば」となっているから、原文では「心を入れかえて」に強い表現の動詞が使われているのではないかと思ひ、筆者は神学生の頃から、自分を低くして霊的に幼児のようになることを、自分の全てを無にして、生まれた直後頃の幼児の心に立ち返ることの意味で受け止めて来たが、主のこのお言葉をこのように受け止める精神は今でも変わっていない。修道者として日々唱えている『教会の祈り』の中には、例えば第一土曜日の読書課に唱える詩編 131 番などに、「心静かに私はいこう、母の手にある幼な子のように。心静かに私はいこう、神の前にある幼な子のように。云々」とある祈りを唱える時には、筆者は心に小さな喜びを感じる。遠からず死を迎える筆者は、これからもこの精神を大切にしていきたい。

余談になるが、筆者が 1959 年秋にイエズス会経営のローマの教皇庁立グレゴリアーナ大学に入学した時、学部は違うがその前年からその大学に学んでいた濱尾文郎師と親しくなり、筆者と一緒に大学の構内を散歩したり、その後も毎年の新年や天長節にヴァチカン駐在 日本大使館での行事に出席して飲み交わしたりしていたが、濱尾師が 1980 年に横浜司教になってからも何回か一緒に会っていた。一度藤沢で食事をした時であったかと思うが、濱尾師は 1970 年 3 月 31 日に日本航空の「よど号」が赤軍派 9 人にハイジャックされ、乗客乗員 134 人が三日間韓国の金浦空港に閉じ込められた時に、その乗客の一人として「よど号」内にいたが、思わぬ非常事態の時には頭脳が働けず、祈ろうとしても祈りが出来なくて、ただロザリオの祈りだけを繰り返していたそうである。その回想談を聞いた筆者は、世の終わりに思わぬ大災害に襲われた時にも、私たちにできることは日々唱え慣れている祈りだけなのではないかと思った。そしてその時に備えて日々ロザリオの祈り（福田注：数珠を使い、使徒信条・主の祈りなどを順繰りに祈る）や自分で決めた祈りを唱えているが、いかなるものであろうか。心の知性と心情を中心にして生きていた幼児期の素直な宗教心に立ち返り、あの世の神や保護者たち（福田注：天使など）に日々呼びかけつつ生きる信頼と従順の実践的習慣を身に付けている人は、突然の災難に直面しても、日頃の祈りを心をこめて唱え続け、あの世からの御保護や助けを受けるのではなかろうか。

「神を信じる」と聞くと、教会という組織の枠に入れられて、さまざまの堅苦しい教えや規則に縛られながら生きる生活を連想する人がいます。しかし、組織や教義や規則は、さまざまな誤りの危険から私たちを護って、神の祝福を

全人類の上に呼び下したアブラハムの信仰に生きさせるためのもの、いわばガードレールや道しるべのようなものであって、アブラハム自身は後の世に広まったそのような理知的組織も教義も規則も知らずに、ひたすら実生活の中でその時その時に示される神の導き・働きに従って生きていたと思います。理知的な頭の知識は現代の私たちよりも遥かに少ししか知らず、自然界や人間社会をごく単純素朴に眺めて暮らしていたことでしょう。しかし、神からの呼びかけ・働きに対するセンスは、神への愛と信頼によって鋭敏に磨かれていたと思われます。そして神への愛と従順に生きようとする心の意志も、日々ますます強靱なものに成長していたのではないのでしょうか。2千年前の主キリストも聖母マリアも、同様の生き方をしておられたと思います。心が目前の規則や困難・貧窮などに囚われすぎず、それらを超えてますます高く神への愛に成長しようと努める所に、キリスト教信仰の特徴があります。

◎小グループでみ言葉に向き合うというときにその目標を明確にすることが大事です。しかし同時に、あれかこれかではなく、統合的な目標がより大事だと思います。

・修養のため。日本の教会は修養会を実施してきました。日本文化の中で、「立派な人」「人間性の豊かな人」「成熟した人」が尊敬されてきました。再臨になれば、完全にイエスさまに似る者へと変えられるので、地上にあるときは、他の目標に集中するというのは、違うと思います。

・水草修治牧師のブログから：物語的啓示の長所は、先に書いたように、神は歴史の中に働かれる生ける神であることを知らせる点にあり、読者は追体験をすることができるということである。だが、物語啓示の弱点は、その物語を通じて何を伝えたいかということは、明瞭ではなく、読者の主観によって相当左右されてしまうということである。他方、命題的啓示の長所は、何を伝えたいかということが、物語的啓示に比べて、はるかに明瞭であるということである。しかし、命題的啓示の弱点は、観念的・抽象的であるということである。そこで、神は聖書を啓示するにあたって、物語的手法と、命題的手法の両方を採用なさったのだと、筆者は理解している。

中世の神学、そして、近世の保守的神学とその系譜をひく福音派の神学は、どちらかといえば命題的啓示を重んじてきた傾向があり、近年は、物語ブームである。だが、神は聖書を命題的方法と物語的方法の二つをもって、啓示されたのである。」

命題的真理は教理を明確化し、信条・信仰告白の言葉となり、組織神学をもたらします。歴史的真理は、聖書神学的アプローチです。これら二つは分離されるものではありません。またデボーショナルな聖書の読み方も聖書の正しい

理解に相對するものとして受け止めるべきではないと思います。

・聖書を学び、そこに書いてあることを理解することは大事です。しかし「聖書」から入って行くと、「生活」に結びつくのが難しいです。反対に生活・人生の分かち合いから入って行くと、「聖書」と結びつくのが難しいです。この二つの一つと統合されて、「み言葉に向き合って生きていく」ことが大事です。そのためには小さなグループでみ言葉に向き合い、また現実にそれぞれの人生に起きていることを分かち合い、助け合うことが大事です。

・宣教大命令に従い弟子を生み出す弟子を作ることに目標を集中する人々もいます。Five Questions for July 7のアナ宣教師は、弟子造りに特化しています。フィリピンは、全般的に倫理性が低く、赦しを強調します。ゆるやかです。

・神の国の価値観を追求して、置かれたところで地の塩・世の光として生きることを目標にします。これも大事ですが、この範疇の人々は、言葉で福音を語ること、内にある望みについて説明を求める人に言葉で語ることが弱くなります。

・地上にあって神の国にすでに生きているキリスト者の歩みは、新天新地での歩みと繋がっていることを理解することが大事です。完成された新天新地、すなわち神の国を目指しつつも、「今現在進行形の神の国」に自分も、地域教会も、教育機関も、宣教団体・諸団体も役目と使命を与えられて存在し、なくてはならない存在として用いられている自己理解が大事だと思います。今関わっていることで主のみ旨に従い、主の愛でなしたことは、新天新地に結びついている意識が大事だと思います。そうでない行いは焼けてなくなります。

1 コリント 3：11～15「だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。『その日』がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。だれかの建てた家が残れば、その人は報いを受けます。だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。」

マタイ 25：21、23、ルカ 19：17「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんのお金を任せよう。主人の喜びを喜んでくれ。』」

最後の審判があることはもっと明確に語られなければならないと思います。タラント、すなわち与えられている人生をどう生きるかが繋がっています。

「私たちは、クリスチャンとして、たんに魂の不滅だけではなく、肉体の復活を信じている。創造において神は、人間の魂と肉体は、互いに依存し合い、どちらも相手なしには本来のあり力を保ち得ないと定めた。アダムの墮罪以来、肉体の死に際して、この二つは分離するようになった。しかしこの分離は最終的でも永続的でもない。ハリストスの再臨の時には魂も肉体もよみがえる。そして魂と肉体はもう一度結び付き、一人の復活した人格として最後の審判を受けるために主の御前に進み出る。

神の裁きは、ヨハネの福音が強調するように、私たちの地上での生涯を通じて常に行われている。意識しているかいないかにかかわらず、善を選ぶならすでに永遠の生命は先取りされ、悪を選ぶなら地獄を前もって味わうことになる。最後の審判への最もふさわしい理解は「真理の時」、すべてのものに光があてられる時である。私たちの「選択」の行為のすべてが、そのすべての意味と一緒に、目の前に示される時である。完全かつ明瞭に私たちがどのような人間であるか、私たちの生涯の深い意味と目的が何であったかを知ることになる時である。この最終的な「明確化」の直後に私たちは（魂と肉体が再び統合された人間として）天国あるいは地獄に、永遠の生命に、あるいは永遠の死におもむくことになる。」219-220頁

「『新しい天と新しい地』。人間は肉体からではなく、肉体にあって救われる。物質界から救われるのではない。物質界と共に救われる。人間は小さな宇宙であり創造物の仲立ちなので、人間自身の救いは人間のまわりの生物、無生物の全体に成聖と変容をもたらす。これは『滅びのなわめ』からの救出であり、『神の子たちの栄光の自由』（ローマ8・21）に入ることである。来るべき世の「新しい地」には人間だけではなく、動物のための場所もあるのは確かである。人間と共に、人間を通して、動物たちもまた永遠を領ち与えられる。そして石も樹木も他の植物も、火も、水も…。220頁

あとはWayである。これを「生き方」と訳すこともできるだろう。プロローグで著者は聖使徒行実（使徒の働き）（9・23、24・22）を引いて「キリスト教の最も古い名は道」と言い、随所で「道を行く」というフレーズで、「生き方」としての福音を強調している。

私たちは、神を認識の対象として向こう側において、「神を理論や抽象的な原理として」（第二章「神秘としての神」）探求することを断念して、すなわち「心を変え」「知性を変え」て神に向かう「道」を歩みださなければならない。これが正教の「生き方」である。vi頁

正教の道：キリスト教正統の信仰と生き方 主教カリストス・ウェア著  
松島雄一訳 新教出版社

以下の文書が下敷きにあります。

- ・私の物語と神の物語 幌向子羊教会（神の物語と私の物語、二つの物語のリンク、小グループでの分かち合いでこのことが深まる。）
- ・パート0, 1, 2, 3, 4（神とともに歩む日々の祈り、聖書に向き合い正しく理解する、聖書の教えと自らの信仰の歩みがリンクする、それを分かち合いで深める、小グループで成り立つ教会形成）
- ・今後増えていくことが予測されている無牧教会への一つの提案（最初のステップを通過しないで教会形成をしてきた教会が無牧になると悲惨です。お手上げです。そうならないために、聖書に向き合い、帰納的に学ぶことに慣れていくことを推進します。説教をどのように聞くかが分かってくるし、たとえ無牧になっても聖書に向き合うことが続きます。）
- ・5 Questions for July 7 Small Group Meeting（アナ宣教師による日本での小グループで成り立つ教会形成のプレゼン）

### ③ 先達の言葉

◎マザー・テレサの言葉「どれだけたくさんのごことをするかが問題ではなく、愛をその行為にこめるかが大切なのです。」愛を込めて、福音を広げること、人を育てること、教会形成をすることが大事と思います。

（福田注：マザー・テレサは最初ロレト修道女会に入会しましたが、この修道女会はイエズス会の影響が強い会でした。またテレサが愛の宣教者を創立してから、3名ほどの霊的指導者が任命されていましたが、すべてイエズス会士でした。）

◎Slow Work of God ティヤール・ド・シャルダン S. J.

何よりも、神のゆっくりとした御業に信頼せよ。

私たちは、すべてのことにおいて本質的に極めて忍耐力がなく、遅れることなく目標に達したいと願う。

途中の段階を飛ばしてしまうのを好む。

私たちは、途上にあることに対して忍耐力がなく、未知のことがらに対して忍耐力がなく、

何か新しいことに対して忍耐力がない。  
進歩には必然的に法則がある。  
不安定なくつかの段階を通過して進歩する。  
そのプロセスは長い時間がかかる。  
あなたにとっても同じである。  
あなたの色々なアイデアは段々と成熟する。  
アイデアが成長するままにせよ。  
アイデアが、急がずに自然と形を取るようにせよ。  
アイデアを、強いて成熟させるな。  
時間が、つまり恵みや状況があなたの意志に働きかけて、  
明日のあなたを築き上げるのに、  
それを今日、達成しようとするな。  
神のみが、この新しい精神がゆっくりと  
あなたの内で形を取り、何になるのかを知っている。  
主の御手があなたを導いていると、  
主が信じることができるようにせよ。  
また自分が中途半端で、不完全であるという、  
不安な心を受けいれよ。  
何よりも、神のゆっくりとした御業に信頼せよ。  
神は、私たちの恵み深いブドウ園の働き人である。  
アーメン。

私訳：福田崇

◎「神の御摂理に楽観的に信頼する」ペドロ・アルペ S. J.

矯正することが不可能な楽観主義者でした。イエズス会総長に就任したのは、第二バチカン公会議の後の混乱期です。4万人いたイエズス会士が2万人に減少した時の総長です。補佐役が、「アルペ神父様、仲間のイエズス会士が次々に辞めていきます。早く手を打つべきと思います。」と進言しました。アルペ神父は、「大丈夫！皆辞めていなくなったら、最後に私が部屋を出て、電気のスイッチを切るから、心配しないでください。」といったそうです。その土台には、主の摂理に対する信頼がありました。キリストの花嫁である教会は、再臨まで存続します。そうでなければ「迎えにこられる再臨」の意味がないからです。しかしイエズス会などの修道会、一つ一つの司教区や、地域教会は主のみ旨であれば再臨まで役目を果たしつつ存続しますが、その保証はありません。いつか役

目を終えて解散・消滅することもあります。

◎山本五十六の教育に関する名言があります。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

弟子を育てる道では、言葉も役割を果たしますが、見て、自分で考えて、やってみてというプロセスが必要です。時間がかかります。私たちが聖書翻訳で奉仕していたフィリピンの山岳部族では、男であれば全員家を建てられます。鶏・アヒル・ウサギ・ヤギ・犬・豚・牛・水牛などを食べるために屠り、解体し、肉にすることは、男であればほぼ全員ができます。稲刈り、田植えなどは男も女も皆できます。まずは見ている段階があります。何年もです。次に経験のある人に手を添えてもらいながら、やってみます。これも体得します。次には、経験者は見えて、自分でやってみます。次には若い人を助けます。キリストの弟子となることも同じと思います。また小グループの進行役になるのも同じと思います。弟子として、また進行役は真に謙遜であることが必要ですが、これも時間をかけて体得していくものと思います。弟子運動の教会が、カルト的な教会になる危険性は絶えずチェックしなければなりません。

#### ④ 文献の紹介

◎人を育てる、小グループを始める、そのリーダーを育てるということに関しては手探りで、聖霊の促し・導きに従うことが大事です。小グループの文献は、書かれた段階で明確化・抽象化があります。また事例研究も少ないです。それでも7冊の日本語の文献の大まかな目次を紹介します。

・小グループで教会は変わる（直訳は、小グループから成る教会）

ビル・ドナヒュー&ラス・ロビンスン共著 松本徳子訳 2004年

この書籍は、ウィロークリーク・コミュニティ教会の物語です。395頁です。

第一部：交わりの必然性を立証する：神学的・社会的・組織論的証拠

第二部：小グループで交わりを追求する

○真実な人間関係を土台とする小グループ

○聖書の真理が実生活と結びつく小グループ

○対立への健全な対処をもたらす小グループ

○バランスの取れた牧会をする小グループ

第三部：小グループのリーダーを育てる：選ぶ、訓練する、支援する

#### 第四部：小グループから成る教会を実際に導く：決断する、戦略を決める、導入する

- ・教会成長における小グループの役割 鷹取裕成著 日本基督改革派教会西部  
中会文書委員会刊 1987年

著者は単立堺大浜キリスト教会の牧師の時に刊行しました。32頁です。

##### I 現代における小グループの必要性

1. 人が救われるためには個人的な交わりが必要
2. ひとりの牧師が牧会できる範囲には限界がある
3. 人数が多くなるとコミュニケーションが失われる
4. 弟子造りは大人数の中ではできない
5. 現代社会が小グループを必要としている

##### II 初代教会における家の教会

1. エルサレム教会の教会生活のあり方
2. 異邦人世界における家の教会
3. ローマにおける家の教会

##### III 教会史における小グループの貢献

1. 修道院運動
2. 宗教改革
3. 清教徒運動
4. 敬虔主義運動
5. メソジスト運動
6. アメリカにおける各教派の成長

##### IV 小グループの実例

1. アメリカの教会における実例
2. 韓国の教会における実例
3. 堺大浜キリスト教会における実例

- ・スモールグループから始めよう！人生を変える恵みと真理の実践

ヘンリー・クラウド&ジョン・タウンゼント共著 中村佐知・昇共訳  
2005年 421ページあります。

この書籍は、六部までありますが、各部の下に章が合計で55あります。

第一部：人を成長させるスモールグループの働き

第二部：良いグループで起こること

第三部：スモールグループを始めるにあたって

第四部：世話役の責任

第五部：参加者の責任

第六部：グループの問題に対処するには

- ・健康なスモールグループが教会を育てる スティーブ・グレイドン著 2013年

この書籍は、サドルバック教会の物語です。この教会のスモールグループを指導した著者がその体験をまとめました。とても具体的な提案が多くあります。284頁です。

「リーダー」という呼び方をしない。スモールグループのリードをリーダーシップの賜物がある人たちだけに限定していたのでは、十分な数のグループリーダーを確保することはできません。自分にはその賜物があることに気づいていない人たちを発掘し、自分は「リーダー」ではないと思っている人たちの誤解を解くためにも「ホスト」などの言い方を考える必要があります。190頁

「他の人たちに簡単に伝えられるような内容にする」以前リック牧師から教わったことは、紙ナプキン一枚にまとめられないような戦略は、複雑すぎて他の人に伝わらない、ということでした。198頁

第一部：健康なスモールグループとは何か

第二部：健康なスモールグループはどのように見えるか

第三部：健康なスモールグループをつくるために具体的に何をすべきか

第四部：スモールグループを教会全体の働きにどう組み込むか

第五部：私にもできますか？

- ・セル教会の本質と実勢 石原良人著 2003年 JCMN 出版

この書籍は、日本セルチャーチ宣教ネットワークの世話人によるものです。247頁あります。

第一部：セル教会の本質 10章で、10のポイントを扱っています。

第二部：セル教会の実際 10章で、10のポイントを扱っています。

- ・活動するグループ 「働く信仰」誌編集部編 山田隆訳 1968年 KGK 刊  
原書は、1966年に出版されました。「働く信仰」(Faith at Work)という雑誌に掲載された論考をまとめたものです。その背後には、このような方向で信仰の歩みをしていた多くのミニストリーがあります。私が大学四年生のときにこの日本語訳は出版されました。大学の聖書研究会での小グループの学び

などのために参考にしました。Hi-b. a. スタッフとして奉仕した時も、この本にある原則を適応しました。235 頁です。

第一部：活動する《グループ》とは何なのか？13 章あります。

第二部：活動する《グループ》は何をすることができるか？ 9 章あります。

・キリスト者小共同体：21 世紀の希望の展開

クライスラー、ルバート、マックギネス共著 菊池功訳 新生社 2002 年

この書籍の原著は、1997 年に出版されています。トマス・クライスラー司祭が 1976 年にアメリカのニューワーク司教区ではじめた刷新の働きのまとめです。ニューワーク市は全米で最も貧しい市の一つで、汚職・強盗・売春・麻薬・ギャング・貧困などの地区でした。そこにあるカトリック教会の取り組みです。ニューワーク司教区はそこに存在している地域教会（小教区）が「様々な小共同体によって成り立つ共同体」となるように目指していました。クライスラー司祭はその責任に任命され、三年間の「刷新」プログラムを推進しました。全米の 140 をこえる司教区に広がりました。全体で 4 百万人の信者が今まで体験しなかった小グループで、み言葉に向き合い、分かち合い、聖霊に促されて実践に取り組みました。414 頁あります。

第一部：キリスト者小共同体の基礎

第二部：宣教司牧指針とその実践

第三部：具体的な方法とその結果

むすびに：

【・日本政府の官邸は、半年先、良くて一年先を見て仕事をしているそうです。予算も単年度です。日本の教会や宣教団体もともすると将来のイメージが明瞭ではなく、目の前のことに追われているのではないのでしょうか。小グループ運動、弟子運動、包括的な宣教、霊性を求める歩みなどを総合的に考えて、5 年先、10 年先、20 年先の姿を Mission, Vision, Core Values などに言葉化することが大切ではないのでしょうか。

・山口 香 JOC 委員のインタビューでの発言： 選手のところ、納得のいかないトレーニングほど、つらく苦しいものはありませんでした。組織委員会の実務担当者は今、寝ずに準備に追われているはずです。ポイントはその努力が誰のためかですよ。終わった後に IOC や VIP からお褒めの言葉をもらっても、国民からのねぎらいがなければむなしくないですか。ゴールの先に、誰の笑顔を見たいのかを考えて「今、何をすべきか、どんな判断をするべきか」の判

断してほしいですね。】

- ・イムマヌエル総合伝道団の創立者蔦田二雄師のことばを覚えています。  
「自分で立ち上げなければ、継続する力はない/継続するのは困難である」  
これは協力を拒否するものではありません。現にイムマヌエルは当初から宣教団と協力関係を結び、宣教師がいました。  
しかし中核的には、当事者が責任を持ち、覚悟を決めて歩んで行くものと思います。このことは他を助けるということでも、他者の自立の芽を摘むような助けは控えなければなりません。実践的にはこれが難しいです。  
多くの日本の教会が高齢化し、衰退し、閉鎖に向かって行くと思われませんが、自分で立ち上げる覚悟が弱かったのかも知れません。  
韓国カトリックの枢機卿が、日本の枢機卿に言ったことがあります。  
「朝鮮戦争の後、外国からの修道会、宣教会は皆、中国から日本に転戦していて、韓国は見向きもされなかった。神学校で神学生の食事を確保するのに、若い頃苦勞しました。正直、豊富な資金的、人材的支援がある日本がうらやましかった。しかし神さまは、その中で韓国カトリック教会を鍛えてくれました。」

# 学生情報システムの操作と活用

1/21 第3回 Faculty Forum



## タイムライン

2

- 15:50～15:55 開会
- 15:55～16:55 教職員メニューの機能と質疑 IT支援室立山剛
- 16:55～17:05 休憩
- 17:05～17:40 PROGの概要と質疑 リアセック島崎さん
- 17:40～18:05 PROGの確認方法と質疑 IT支援室立山剛
- 18:05～18:10 閉会

## 目的

3

1. 成績入力に関する操作方法を理解すること
2. 2月からの面談にあたってTCUポートフォリオの確認項目と入力項目の操作方法を理解すること
3. PROGデータの表示について理解すること
4. その他教職員メニューに追加された機能を理解すること

## 今後のスケジュール

4

日程	実施者	内容
2/1～2/15	学部の担任教員	担当学生と面談スケジュールの調整 担当学生の面談 面談記録とCLF合否判定を入力
2/16まで	卒業予定者の担任	卒業・修了総合評価書の入力
2/16～2/21	担任グループ代表	教育課程評価に関する学年・専攻別担任ミーティングを招集 教育課程評価を入力
2/22	学務会議	卒業・修了総合評価書と教育課程評価を確認
3/4まで	科目担当教員	成績送信

## 担任グループ

5

担任グループ	教員名（先頭が代表者）
総合神学科1年（春入学）	岩田、辻中
神学・国キ2年生	森、篠原、マクドウェル
国キ3-4年	森田、倉沢
福祉3-4年	中澤、井上、菅野
神学3-4年	大和、徐、須藤
教会教職3-4年	菊池、斎藤
ACTS-ES 総合神学科1年（秋入学）	ショート、柳沢、サイツマ、バビリエ
修士	伊藤、岡村

## 担当学生別確認項目と入力項目

6

担当学生	確認項目	入力項目
全学生	学期別成績	
	区分別成績	
全学部生	学生自己評価書	CLF評価と面談記録
	PROG/DP到達度	
	修得科目とDPの関係	
	教会実習	
	資格試験	
学部4年生	卒業小論文	卒業総合評価書
修士1年生	学生自己評価書	教員コメント
修士2年生	修了自己評価書	修了総合評価書

# PROGデータの見方

7

## ● PROG

対人基礎力：「親和力」「協働力」「統率力」  
対自己基礎力：「感情制御力」「自信創出力」「行動持続力」  
対課題基礎力：「課題発見力」「計画立案力」「実践力」



# PROGデータの見方

8

1・4年生



2年生



3年生



## ジェネリックスキル測定PROG 説明と活用について

株式会社リアセック

島崎 雅史

### PROGの**特徴**について

#### 特徴1 測定項目が多く、D Pにおける強み・課題の把握が可能

⇒PROGテストで網羅している項目は39。貴学D Pの可視化や、貴学生の特性把握を可能にします。

#### 特徴2 学生の自己評価ではなく、客観的に測定が可能

⇒従来の測定方法ではなく4000人の社会人を外的基準にしたプロフィール型を採用しています。

#### 特徴3 導入実績が多い為、自学の強み・課題の可視化が可能

⇒2020年単年度実績で、導入校数：約300大学、約22万人になります。他学生との比較、学問系統別、偏差値別等を比較集団として、学部学科別の比較、経年受験の際は成長分析もご報告致します。

#### 特徴4 学生の主体的な学び/自己P R作成支援が可能

⇒自分の成長が可視化出来る診断結果や、能力開発のヒントを豊富に掲載したP R O Gの強化書を活用し、学生の主体的な学びをサポートします。

#### 特徴5 信頼性と妥当性が検証されている

⇒高得点者ほど、早期内定、または人気企業からの内定取得をしており、尺度として妥当性を検証しています。

# ジェネリックスキル測定PROGについて

特徴①  
測定項目の網羅性

▶ 「PROG」とは、社会で求められている能力（ジェネリックスキル）を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントテストです。

## PROGテストで測定している能力要素

### ※リテラシーの測定方法

- ・単なる知識の定着ではなく、知識を実践的に活用する力を測るため、現実的な場面を想定したオリジナル問題について、最適解を求めます。
- ・測定する能力は、問題解決のプロセスに必要な以下の4要素です。



リテラシー	コンピテンシー
<p>知識を活用して課題を解決する力（≒思考）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集力</li> <li>・情報分析力（言語処理力、非言語処理力）</li> <li>・課題発見力</li> <li>・構想力</li> </ul>	<p>経験を積むことで身についた行動特性（≒態度、技能）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人基礎力（親和力、協働力、統率力）</li> <li>・對自己基礎力（感情制御力、自信創出力、行動持続力）</li> <li>・対課題基礎力（課題発見力、計画立案力、実践力）</li> </ul>

### ※コンピテンシーの測定方法

- ・普段の行動特性について、どれが正解と決められない質問を多数出題し、実際に社会で活躍する若手社会人とどれだけ近い回答をしたかにより、判定します。
- ・測定する能力は、以下の要素です。

PROGコンピテンシー（リテラシーと測定可能な能力）	内容	構成要素
対課題基礎力	課題発見力	問題の存在を把握し、必要な情報を選択的に収集する力
	計画立案力	問題解決のための具体的な計画を立てる力
	実践力	計画立案に基づき、具体的な行動を実行する力
対人基礎力	親和力	円滑な人間関係を築く力
	協働力	協働的に仕事を進める力
	統率力	チームやプロジェクトを統率する力
對自己基礎力	感情制御力	感情のコントロールする力
	自信創出力	自信やモチベーションを創出する力
	行動持続力	目標達成に向けて、継続的に行動する力

3

RIASEC INC, All rights reserved.

# 特徴①測定項目が多く、DPにおける強みの把握が可能

特徴①  
測定項目の網羅性

### ■社会ニーズを網羅した設問項目

2000年以降に実施された9種類の社会ニーズアンケートで収集した全407の項目をリクルートワークス研究所と協力して「社会人として成果をあげるために必要な要素」として整理しました。多様な領域を網羅的に測定している為、大学独自で定義するジェネリックスキルとの対応付けも行い易いです。

※コンピテンシーは、9つの構成要素の下位に33の項目があります。

大版におけるキャリア教育（大阪商工会議所）	若者が自立できる社会へ（経済同友会）	企業が求める人材の能力などに関する調査（厚生労働省）	人材ニーズ調査（経済産業省）
摩擦や競争を避けず自分の考え・意見を伝える	協調性	自分とは異なる考えを理解する能力	先入観を持たずに相手の話を受け止め、信頼構築に役立てることができる
人に関心があり世代や価値観を越えてコミュニケーションする	環境適応力	誠実さ	自分の所属する組織・チーム全体の業績や成長を意識した行動ができる
組織の一員としての役割を果たす	忍耐力	自分の意見をはっきりと主張すること	立場や状況に応じて自分の感情をコントロールし、ストレスやプレッシャーに負けずに行動できる
目標を高く掲げて誠実に努力して達成している	責任感	リーダーシップを発揮すること	現状に満足せず、継続的に学習し、自らを高めてゆく
変化にスピーディに対応する	課題発見能力	自分の責任で決定を下す能力	
	問題解決能力	自発性・学習能力	
	チャレンジ精神	情報やアイデアを収集し整理する能力	

リテラシー（受験時間45分）		コンピテンシー（受験時間40分）	
領域	構成要素	領域	構成要素
問題解決力	情報収集力	対人基礎力 他（人と信頼を築き、チームとして動かす力）	親和力 人と関係を築き、共感・信頼する力
	情報分析力		協働力 役割を認識し、役割に助け合う力
	課題発見力		統率力 意見を主張し、チームをまとめる力
問題解決力	自己創出力	對自己基礎力 自分の感情ややる気をコントロールする力	感情制御力 自分の感情を適切にコントロールする力
	課題発見力		自信創出力 自分を励まし、自信を引出す力
	構想力		行動持続力 目標に向けて粘り強く、完成する力
問題解決力	情報収集力	対課題基礎力 課題解決に向けた行動を計画・実行し、課題を克服する力	課題発見力 問題を発見し、本質に迫る力
	情報分析力		計画立案力 目標を設定し、計画を立てる力
	課題発見力		実践力 考えを行動に移し、実行する力

4

RIASEC INC, All rights reserved.

## 特徴①測定項目が多く、DPにおける強みの把握が可能

特徴①  
測定項目の網羅性

1. リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）		2. コンピテンシー（人と自分にベストな状態をもたらす力）		
リテラシー 6つの力	中分類	定義		
	情報収集力	課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理する力		
	情報分析力	収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する力		
	課題発見力	現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する力		
	構想力	さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する力		
	言語処理力	語彙や同義語、言葉のかけ受けなど、言語の運用に関する基礎的能力。		
非言語処理力	数的処理や推論、図の読み取りなど、情報を読み解くために必要な基礎的能力。			
対人基礎能力	親和力	中分類(9項目)/定義	小分類(33項目)/定義	
		親しみやすさ	話しかけやすい雰囲気をつくる	
		気配り	相手の立場に立って思いやる	
	協働性	人に興味を持ち共感信頼する力	対人興味・共感・受容	人に興味を持つ。共感し受けとめる
		多様性理解	多様な価値観を受け入れる	
		信頼構築	他者を信頼する。他者から信頼される	
	協働力	役割を理解し相互に助け合う力	役割理解・連携行動	自分や周囲の役割を理解し、連携・協力する
		情報共有	一緒に物事を進める人達と情報共有する	
		相互支援	互いに力を貸して助け合う	
	統率力	意見を主張しチームを高める力	相談・指導・他者の動機づけ	相談にのる。アドバイスする。やる気にさせる
		話し合う	相手に合わせて、自分の考えを述べる	
		意見の調整・交渉・説得	集団の中で自分の意見を主張する	
対自己基礎能力	感情制御力	自分の感情を適切に制御する力	意見を主張する	
		建設的・創造的な討議	議論の活発化のために自ら働きかける	
		建設的・創造的な討議	意見を調整し、合意形成する。交渉、説得をする	
	自信創出力	自分を知り自信を引き出す力	セルフアウェアネス	感情や気持ちを確認し、自分の行動を調整する
		自己効力感・楽観性	ストレスコーピング	感情を及ぼすストレスを処理する
		学習視点・機会による自己変革	ストレスマネジメント	緊張感やプレッシャーを力に変える
	行動持続力	主体的に取り組み完遂する力	自己理解	他者との違いを認め、自己の強みを認識する
		計画	自己効力感・楽観性	自信を持つ。やればできるという確信を持つ
		良い行動の習慣化	学習視点・機会による自己変革	学ぶ視点をもち、経験を自己の変革に活かす
	課題発見力	情報を集め本質に迫る力	主体的行動	自分の意志や判断において進んで行動する
		計画立案力	計画	決断したことを、粘り強く取り組みやめず
		実践力	良い行動の習慣化	自分なりのやり方を見出し、習慣化する
対課題基礎能力	課題発見力	情報を集め本質に迫る力	情報収集	適切な方法を選択して情報を収集する
		本質理解	事実に基づいて情報を分析し、本質を見極める	
		原因追究	様々な要因の中から、課題の原因を明らかにする	
計画立案力	目標を設定し計画を立てる力	目標設定	ゴールメーを明確にし、目標を立てる	
	シナリオ構築	目標や課題解決に向けての見通しを立てる		
	計画評価	自分の立てた計画を振り返り、見直す		
実践力	考えを行動に移し振るる力	リスク分析	リスクを想定し、事前に対策を講じる	
	修正/調整	実践行動	自ら物事に力を入れる。実行に移す	
	検証/改善	検証/調整	状況を見て、計画や行動を柔軟に変更する	

5

RIASEC INC, All rights reserved.

## （参考）一般的なアセスメントの懸念点

特徴②  
客観的な測定方法

- 従来性格テストや能力テストにおいては、例えば5肢選択の場合、1点から5点の等間隔な配点を前提として採点されてきました。

### 【某テストの「経験」を問う設問について】

1 2 3 4 5  
 ぜんぜん やってなかった 少し やっていた 時々 やっていた よく やっていた とてもよく やっていた

- 進路など自分にとって大切なことは自分で決めてきた
- 目標ややるべきことは意識し続けた
- 嫌なことやつらいことは先延ばしにした
- 文化の異なる人々の価値観や習慣の背景を調べた
- 見知らぬ人ともすぐ親しくなれた

しかし、この方法では以下の懸念があり、測定結果の客観的な比較ができません。

### ① 反応歪曲

測定（回答）時における「社会的望ましき」による「反応歪曲」と言われるものです。少しでも自分を良く（社会的な基準に照らして）見せようとして、本来の自分の特性とは違うように回答することを言います。

### ② 自尊感情による心理的バイアス

自己評価で回答するようなテストの場合、自尊感情の高低という個人の特性によって、答えにプレが生じることを言います。（自意識過剰層は高く回答し、謙遜層は低く回答する）

6

RIASEC INC, All rights reserved.

## 特徴② 学生の自己評価ではなく、客観的に測定が可能

特徴②  
客観的な測定方法

コンピテンシー設問例

### ■ 設問の工夫

恣意的に回答できないよう（本音で回答せざるを得ない）、両義性のある設問を採用しています。

### ■ 採点の工夫

「コンピテンシー」を社会で活躍する若手社会人と比較（外的基準に基づいて採点）しています。

社会で活躍する若手社会人(4000人)と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)

連番	A	B
1	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断してきた



7

RIASEC INC, All rights reserved.

## 特徴③ 導入実績が多い為、強み・課題の可視化が可能

特徴③  
導入実績

### ■ 受験者数

・年間実績 約300大学 約22万名

・2012年リリース以来、毎年導入実績は伸びており、累計120万名以上(～2021年3月)が受験。

### 【主な導入校】

※以下、五十音順

- |          |         |         |         |
|----------|---------|---------|---------|
| ・亜細亜大学   | ・甲南大学   | ・帝京大学   | ・日本福祉大学 |
| ・大阪大学    | ・甲南女子大学 | ・帝塚山大学  | ・兵庫大学   |
| ・大阪工業大学  | ・実践女子大学 | ・東海大学   | ・弘前大学   |
| ・京都外国語大学 | ・四天王寺大学 | ・東京都市大学 | ・北陸大学   |
| ・京都女子大学  | ・芝浦工業大学 | ・東京農業大学 | ・明治大学   |
| ・京都橋大学   | ・創価大学   | ・日本大学   | ・明星大学   |
| ・金城学院大学  | ・大東文化大学 | ・日本女子大学 | ・立命館大学  |

### 【研究論文(一例)】

※他、多数の研究論文でPROGデータが活用されています。

No.	論文タイトル	発表年	氏名	大学	掲載誌
1	学生及び企業の類型化とそのクロス集計 -ジェネリクスルの成長と就職先企業の関連性についての仮説提起-	2020	小野田哲弥	産業能率大学	コンピュータ&エデュケーション
2	A短期大学におけるキャリア支援科目の学習成果に関する分析:ジェネリックスキルにおける伸長と授業内の規定要因に着目して	2021	後藤和也	山形県立米沢女子短期大学	武蔵野大学学人間学研究論集
3	入試区分と学生像—自己管理学習レディネス尺度を中心に	2021	雨森聡	静岡大学	大学入試研究ジャーナル
4	入学者選抜を改善するための入試区分別の追跡調査	2021	関陽介	徳島大学	大学入試研究ジャーナル
5	立命館大学文学部における教育の特質および課題—多面的な学習成果の検証を通して—	2021	川那部隆司	立命館大学	立命館大学高等教育研究

### 【受験者の属性】

図1: 偏差値別

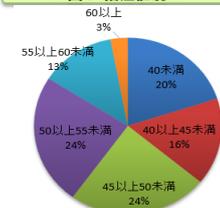
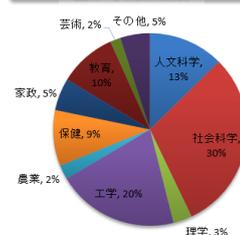


図2: 学問系統別



8

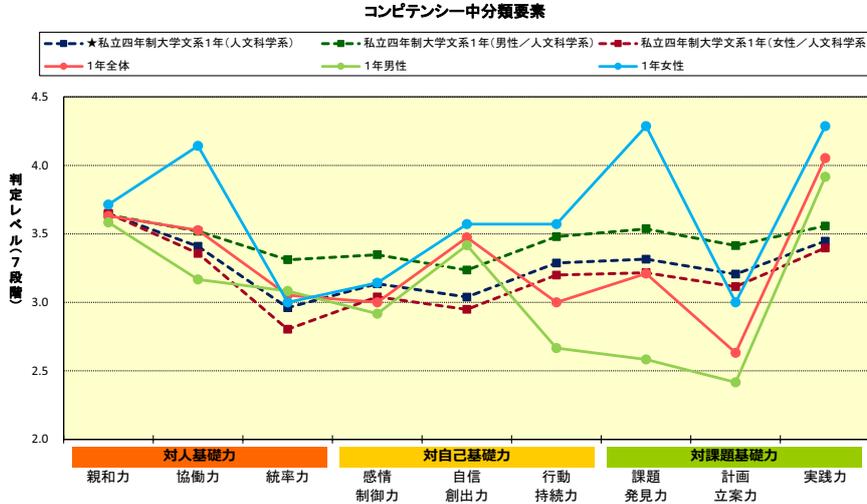
RIASEC INC, All rights reserved.

### 特徴③導入実績が多い為、強み・課題の可視化が可能

特徴③  
導入実績

#### ■ 全体集計報告書

他大学と比較し、学部別、学科別等で分析報告致します。  
※他大学の基準値は偏差値別、学問系統別、男女別等ご指定頂けます。



### 特徴③導入実績が多い為、強み・課題の可視化が可能

特徴③  
導入実績

#### ■ 受験結果一覧

学内にて追加の分析にお使い頂けますよう、受験者の結果一覧を送ります。



コンピテンシー領域

出力順	学籍番号	カナ氏名	学年	性別	受験者ID	3つの力			5つの強み									総合力										総計		
						親和力	対人基礎力	対自己基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力			親和力					協働力							
									親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力				
1	ABC0001	*** **	1	男	R0000010000001	5	5	4	4	5	5	4	3	3	5	2	6	3	5	1	2	1	5	5	4	4	4	3	4	5
2	ABC0002	*** **	1	男	R0000010000002	5	6	5	5	6	5	6	5	5	6	7	5	2	5	2	3	4	4	5	5	3	5	4	4	5
3	ABC0003	*** **	1	男	R0000010000003	5	5	4	3	5	6	4	5	4	3	3	3	6	5	4	3	4	3	1	2	5	3	5	4	2
4	ABC0004	*** **	1	男	R0000010000004	6	6	6	5	5	6	7	5	7	4	5	5	6	4	2	1	5	5	4	5	3	4	5	5	4
5	ABC0005	*** **	1	男	R0000010000005	4	4	4	3	5	4	5	4	4	5	3	4	2	3	3	1	1	4	3	4	3	2	3	4	3
6	ABC0006	*** **	1	男	R0000010000006	5	4	5	5	4	4	5	5	5	4	7	3	4	3	2	5	4	3	3	5	1	3	5	3	
7	ABC0007	*** **	1	女	R0000010000007	5	5	5	4	4	5	5	5	3	6	2	5	3	3	3	2	4	4	1	3	4	3	5	3	3







## (参考) 教学マネジメント指針で求められている「学修成果の可視化」とは

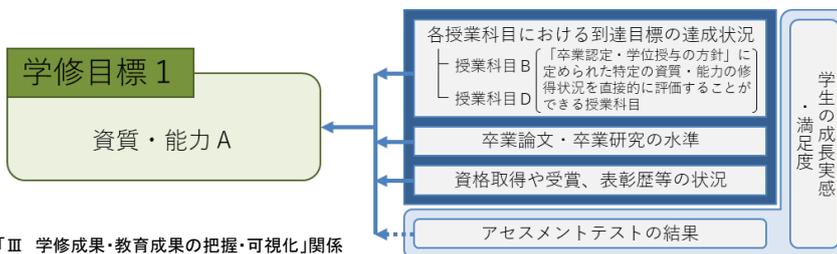
令和2年1月に発表された「教学マネジメント指針（中央教育審議会大学分科会）」では、学修成果・教育成果の把握・可視化について



- ① 学生が学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できること
- ② 教育改善へつなげること
- ③ 複数の情報を組み合わせて多角的に可視化すること が要望されています。

### Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保



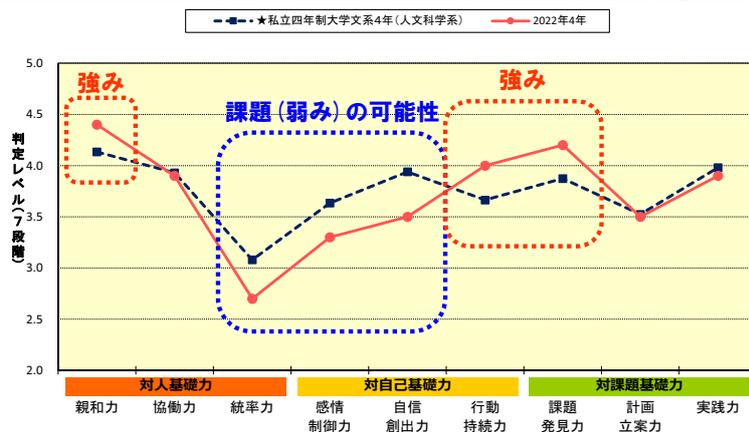
「Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化」関係

17

## (1) 全国の学生群との比較

全国の学生群(基準値)との比較、学内での学部・学科間比較により、学生の特徴を把握。

- 自学(学部または学科)の学生の特徴(強みや課題)を把握し、今後の授業改善・カリキュラム改革等に向けた議論のエビデンスの一つとして活用。



	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
★私立四年制大学文系4年(人文科学系)	4.13	3.93	3.08	3.63	3.94	3.66	3.87	3.52	3.98
2022年4年	4.40	3.90	2.70	3.30	3.50	4.00	4.20	3.50	3.90

18

RIASEC INC, All rights reserved.

## (参考)貴学DPとPROG測定項目の紐づけ例

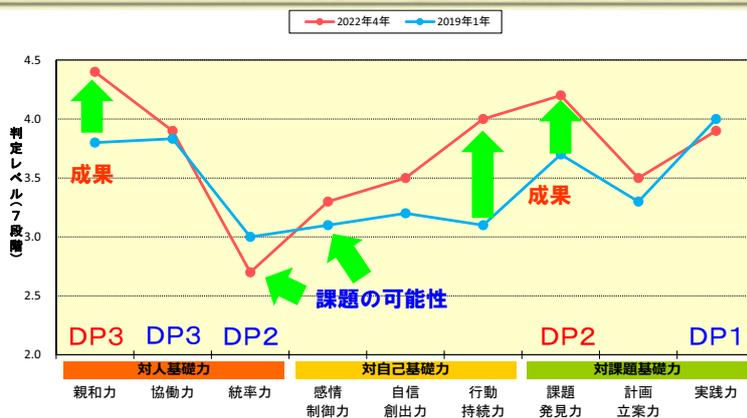
真学DPとPROGの紐づけについて ※定義を見て、紐づけを試みています。	コンピテンシー領域																	
	対人基礎力						対自己基礎力						対課題基礎力					
	親和力 人に親しみを持ち 共感・理解する力		協働力 役割を理解し、 協働に取り組む力		統率力 意思を主に チームを統率する力		感情制御力 自分の感情を 適切に制御する力		自信創出力 自分を認め 自信を生かす力		行動持続力 主体的に取り組む 持続する力		課題発見力 情報を集め 本質に迫る力		計画立案力 目標を設定し 計画を立てる力		実践力 考えを行動に移し 実行する力	
	親しみやすさ	反応力	共感力	人権理解	多様な理解	協働構築	役割理解	協働共有	相互支援	統率意識	統率行動	感情制御	自信創出	行動持続	課題発見	計画立案	実践力	
1	キリスト教神学をより理解し、その使命を教会と社会において実践できる態度と能力を修得している。																	
2	キリスト教世界観の視点、神学的視点、または専門分野の視点から、諸課題を批判的・建設的に分析・統合し、徳善に貢献力をもちて提示することができる。																	
3	世界における痛みを察知し、異なる他者に対する理解に努めて働きと協働することができる。																	

19

## (2)経年比較(学生の成長・学修成果の測定)

1年次から4年次のPROGスコアを比較し、学生の能力変化・成長(学修成果)を確認。

■ 伸長の大きい能力(成果)と小さい能力(課題)を可視化し、今後さらに強化すべき能力の考察、授業改善・カリキュラム改革等に向けた議論のエビデンスの一つとして活用。



	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
2022年4年	4.40	3.90	2.70	3.30	3.50	4.00	4.20	3.50	3.90
2019年1年	3.80	3.80	3.00	3.10	3.20	3.10	3.70	3.30	4.00

20

RIASEC INC, All rights reserved.

# (参考)PROGルーブリック

## ■ CAN-DO-CHART ※コンピテンシー例

受験者の総合評価および「コンピテンシーを支える3つの力」を7段階（1～4段階：学士課程修了レベル/5～6段階：社会人1～3年目に期待されるレベル/7段階：若手リーダーレベル）に設定し、各レベルの到達内容一例を示しています。以下を参考にPDCAを実践していくことで、学生のコンピテンシーレベルを上げていくことができます。

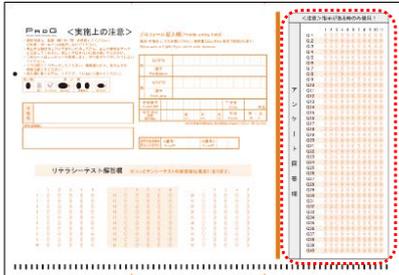
能力	定義	1	2	3	4	5	6	7
対人協働力	親和力 他者との豊かな関係性を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを受け取り、共感を受け取る。また、多様な価値観を受け入れることができる。さらに、そうした関わりから、相手の立場や気持ちを受け取り、共感を受け取る。また、多様な価値観を受け入れることができる。	人に対して笑顔で挨拶を交わすことができる。相手の立場や気持ちを考え、人間関係に配慮した行動をとることができる。	相手に対して自然な笑顔がかけられる。自分と異なる考えや意見を受け取り、相手の話を聞き、理解を示すことができる。	親しくない人に対して、自分から笑顔がかけられる。自分と異なる考えや意見を受け取り、相手の話を聞き、理解を示すことができる。	個人や周囲の状況に応じて適切な言葉遣いを用いることができる。必要に応じて自分の感情や考えを伝えることができる。	相談された際は、相手の立場や状況を理解し、適切な言葉遣いを用いることができる。	親しい人脈や関係性の維持に努めることができる。人脈や関係性の構築に努めることができる。
	協働力 目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解し、それに基づいて協力的に行動することができる。また、必要に応じて自分の役割を調整することができる。	「他の人と一緒に仕事に取組む」が得意である。自分の役割をしっかりと果たすことができる。	「チームで課題に取り組む」が得意である。自分の役割をしっかりと果たすことができる。	「人から相談された際、本人が得意な分野でサポートすることができる。必要に応じて自分の感情や考えを伝えることができる。	「人から相談された際、本人が得意な分野でサポートすることができる。必要に応じて自分の感情や考えを伝えることができる。	「誰かを支援する際には全力でサポートすることができる。必要に応じて自分の感情や考えを伝えることができる。	リーダーとして、周囲の状況や役割を適切に配分することができる。
対自己管理能力	統率力 場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活性化や場の雰囲気をよく保つことができる。また、必要に応じて、意見を調整することができる。	話し合いの場では議論の活性化を図ることができる。自分の意見をしっかりと主張することができる。	自分の考えを整理し、結論を導き出すことができる。話し合いの場では議論の活性化を図ることができる。	相手の状況に敏感に反応し、場をよみ、組織を動かすことができる。自分の意見をしっかりと主張することができる。	周囲の状況に応じて適切な言葉遣いを用いることができる。必要に応じて自分の感情や考えを伝えることができる。	全員に発言を促し、整理や方向付けを行うことができる。	意見が対立した場合、建設的な議論を導くことができる。
	感情制御力 気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	自分の感情や気持ちを適切にコントロールすることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。
対組織協働力	課題発見力 課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行う	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題の存在を明らかにし、必要な情報分析を行うことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。
	計画立案力 課題解決のための適切な計画を立てる	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	課題解決のための適切な計画を立てることができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。
実践力 実践行動をとる	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。	計画を実行し、目標達成を目指すことができる。また、必要に応じて自分の感情を調整することができる。

# (3)ルーブリックから見る経年変化

コンピテンシー (対人)	定義	レベル	大学が設定した到達目標レベル							
			1	2	3	4	5	6	7	
親和力 他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを受け取り、共感を受け取る。また、多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手の立場や気持ちを受け取り、共感を受け取る。また、多様な価値観を受け入れることができる。	東京基督教大学1年								
		東京基督教大学4年								
		私立四年生大学4年 (人文科学系)								
協働力 目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解し、それに基づいて協力的に行動することができる。また、必要に応じて自分の役割を調整することができる。	東京基督教大学1年								
		東京基督教大学4年								
		私立四年生大学4年 (人文科学系)								
統率力 場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活性化や場の雰囲気をよく保つことができる。また、必要に応じて、意見を調整することができる。	東京基督教大学1年								
		東京基督教大学4年								
		私立四年生大学4年 (人文科学系)								

## (参考)PROGで設定可能なアンケート

PROG解答用マークシート表面のアンケート回答欄を使って、自由にアンケートをとることができます。  
PROG結果と別途分析をし、教育改善に役立てることができます。



- ◆Q1～Q40まで、最大40問、選択肢1～11まで、単一/複数選択いずれも可能
- ◆データ化したアンケート結果は以下のようなデータ形式となる

id	Q1:1	Q1:2	Q1:3	Q1:4	Q1:5	Q1:6	Q1:7	Q1:8	Q1:9	Q1:10	Q1:11
R000000000001	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000002	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000003	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000004	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000005	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000006	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000007	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000008	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000009	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000010	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000011	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000012	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000013	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000014	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000015	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000016	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000017	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R000000000018	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

- ※データ形式はcsv
- ※先頭にID (PROG受験結果と同一のID)、1行で1名分のデータ
- ※回答結果はQ1:1～Q40:11まで列に「1」、「0」で入る(「1」=マークをした)

### 【アンケート例】

Q1.どのような入学試験で本学に入学しましたか？(1つ選ぶ)

- ①一般入試 ②センター利用 ③AO入試 ④公募推薦 ⑤指定校推薦 ⑥内部推薦 ⑦その他

Q2.以下の中から、これまでの学生生活の中で経験したことをお答えください(あてはまるもの全て選ぶ)

- ①サークル・部活 ②アルバイト ③インターンシップ ④海外留学 ⑤ボランティア活動

23

## (4)アンケート関連分析

### アンケートとの相関分析

- 尺度による選択肢のアンケート設問と基礎力との間での相関分析を行った(加重の点数設定はP3を参照)。0.2以上の相関が認められる基礎力は下記の通りである。
- 高校時代についての設問
- 「問コ、先生との交流」:多くの基礎力との間で弱い相関が認められ、大分類では【対人基礎力】【對自己基礎力】【対課題基礎力】すべてで0.2以上の相関が認められる。●「問シ、授業でわからないこと調べたり、きくこと」や「問ス、予習・復習」の熱心度は、【対課題基礎力】(およびその領域の中分類項目)との間で相関が認められる。●高校時代の取組みは【協働力】との間で相関が認められるものが多く、【協働力】の高い学生ほど、高校時代の課外活動や人との交流に熱心に取り組んでおり、高校時代の満足度も高い。

●●大学 A学部 (N=357) ※ただし各設問無回答は除く

\*\* 相関係数は1%水準で有意  
\* 相関係数は5%水準で有意

0.2以上  
0.3未満

0.3以上  
0.35未満

0.35以上

		PROGコンピテンシー												
		総合	対人基礎力	對自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			對自己基礎力			対課題基礎力		
						親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信・意出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
1	問ア 月にどれ位の本を読みますか(漫画を除く)	0.10	0.03	0.06	0.17**	-0.03	0.02	0.08	0.04	0.01	0.08	0.23**	0.14**	0.04
2	問イ 現在、卒業後の進路(就職・進学等)について明確なお考えをお持ちですか	0.14**	0.12*	0.13*	0.03	0.07	0.12*	0.09	0.07	0.14**	0.11*	0.10	-0.03	0.03
3	問オ グループで、様々な課題に取り組み授業について関心がありますか	0.3**	0.33**	0.21**	0.12*	0.25**	0.36**	0.23**	0.14**	0.19**	0.2**	0.17**	-0.01	0.22**
4	問カ 所属専攻のアドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーを理解していますか	0.19**	0.16**	0.16**	0.15**	0.09	0.14**	0.17**	0.14**	0.16**	0.10	0.15**	0.07	0.06
5	問キ 高校生活全般の満足度について	0.14**	0.16**	0.13*	-0.04	0.11*	0.24**	0.07	0.07	0.17**	0.07	0.02	-0.07	-0.02
6	問ク 取り組み熱心度:クラブ・部活について	0.18**	0.17**	0.13*	0.06	0.11*	0.23**	0.12*	0.09	0.14**	0.12*	0.06	0.05	0.07
7	問ケ 取り組み熱心度:友人との交流について	0.21**	0.26**	0.12*	0.04	0.29**	0.34**	0.01	0.09	0.15**	0.06	0.02	0.00	0.08
8	問コ 取り組み熱心度:先生との交流について	0.3**	0.28**	0.24**	0.26**	0.26**	0.32**	0.12*	0.15**	0.25**	0.2**	0.18**	0.2**	0.2**
9	問サ 取り組み熱心度:授業が(クラブ・部活を除く)の関心ある事について	0.29**	0.27**	0.25**	0.13*	0.22**	0.27**	0.19**	0.18**	0.25**	0.17**	0.13*	0.06	0.09
10	問シ 取り組み熱心度:授業でわからない事を調べたり、きくことについて	0.19**	0.13*	0.18**	0.13*	0.14**	0.06	0.11*	0.16**	0.15**	0.2**	0.18**	0.28**	0.3**
11	問ス 取り組み熱心度:予習・復習について	0.2**	0.13*	0.15**	0.13*	0.12*	0.12*	0.10	0.09	0.10	0.17**	0.24**	0.26**	0.3**

24

RIASEC INC, All rights reserved.

## (5) アンケート関連分析(学校生活での経験から)

### 【分析内容】

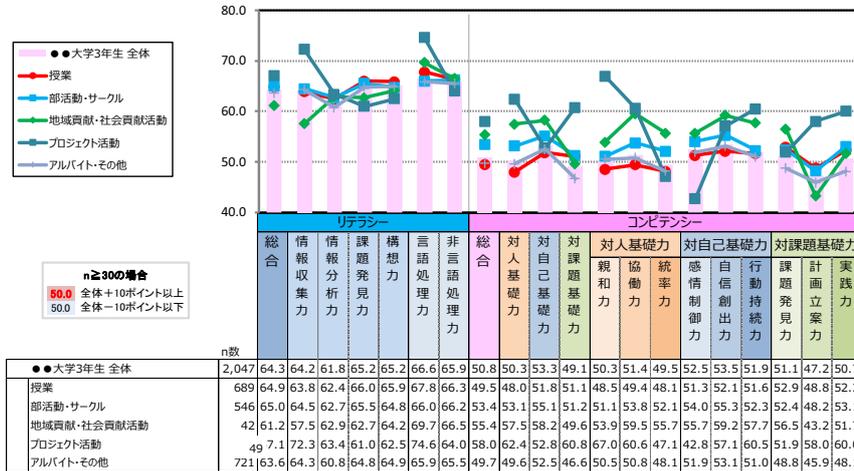
・学修行動調査(アンケート)とPROGのスコア(1年次から3年次の成長度:PI値)を掛け合わせ分析

### 【検証結果(下記事例の場合)】

・プロジェクト活動や地域貢献・社会貢献活動に力を入れて取り組んだ学生は、コンピテンシーの伸長が全般的に大きい。  
 ・授業に力を入れて取り組んだ学生は、リテラシーの伸長が比較的大きい。一方で、コンピテンシーの伸長が全般的に小さい。

#### ■ PI値平均スコア比較

学生生活の中で最も力を入れて取り組んできたものは何ですか。



## (6) 他大学分析事例(効果検証)

### アクティブラーニング意欲別

### 【ポイント】

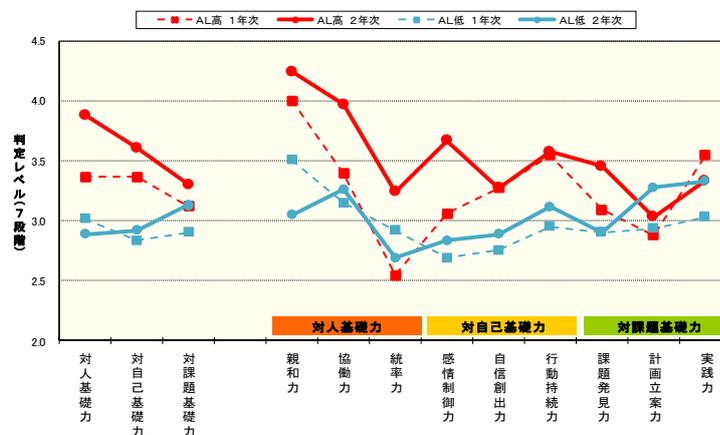
・アクティブラーニングの効果検証として活用。アクティブラーニングを能動的に実施した学生(A L高)と、受動的な学生(A L低)での比較。

### 【概要】

・A L高(n=33)の学生は、A L低(n=61)の学生と比べると、初期値から対人・対自己の能力の水準が高い。2年次になると、対人・対自己・対課題共に伸長しており、特に、「協働力」、「統率力」、「感情制御力」、「課題発見力」の伸長が目立つ。  
 ・一方、A L低の学生は、対自己・対課題に若干の伸長が見られるが、対人に関しては、若干下がっている。特に、「親和力」が下がっている。

⇒仮説として、A L低の学生は、プロジェクト内で円滑なコミュニケーションが取れず、他人任せで乗り切れていない、いわゆる「フリーライダー」の可能性が。今後、チームビルディング等を通して、グループ内全員が参加する仕組み作りが期待される。

### コンピテンシー 大・中分類要素



## 教育改善・学生のジェネリックスキル育成 活用事例

- ①初年次教育授業科目の改善事例
- ②ディプロマポリシー毎の成長可視化・カリキュラム見直しへの活用事例
- ③学生インタビュー調査からの授業改善事例

※実際の分析事例を基に、一部データを加工して掲載しています。

### (1)初年次教育授業科目の改善事例

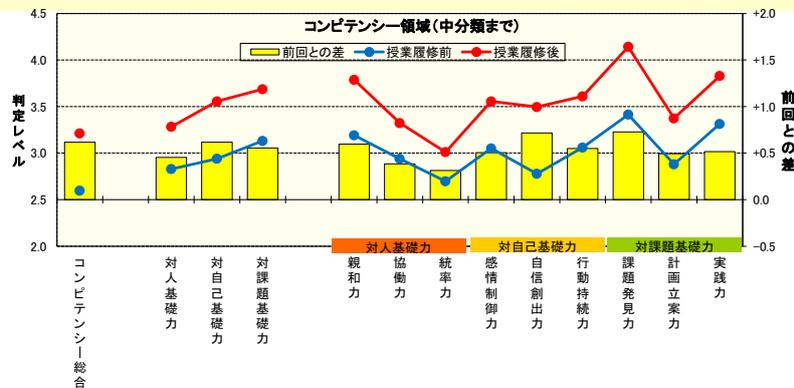
国立大学 理系学部 初年次教育授業（1年生/必修）

#### <PROG結果から見えてきた学生の傾向と課題>

○リテラシー(思考力)は高いが、周囲の環境と良い関係を築く力(コンピテンシー、特に対人基礎力)が十分に育っていない状態。学内でも学生の傾向として  
①一人で調べものをしたり、計画を立てたりすることは比較的得意である、②対話力に乏しく、自分から声がかげられない、③自己効力感に乏しく、未知の物事に対する恐怖心が強い、という指摘  
→PROG結果から見えてきた学生の行動特性を踏まえて、初年次教育授業(必修科目)のシラバスを見直し。

#### <取組の特徴、工夫>

○授業開始時にウォーミングアップ、終了時にクールダウンを図る手続きを設け、コミュニケーションをとる心の準備をさせてからチーム活動に取り組みさせた。  
○チーム活動を授業に取り入れることで、コミュニケーション能力・チームビルディングの重要性を学生に体感させ、大学生活・社会に出てからも必要なコンピテンシーの基礎づくりを行った。(ピアリハビリ、名刺作成、ポスター発表等)  
○①テーマの難易度、②テーマと自己との距離感、③自己と他者の距離感を考慮して徐々に難易度を高め、「人とやりとりをすること」に慣れるように設計。



授業前後にPROGを受験した結果、育成課題としていた親和力・自信創出力を含めたコンピテンシー全般の伸長が確認された。

## (2) 学生インタビュー調査からの授業改善事例

PROGスコアが伸びた学生に成長要因インタビューを実施し、授業改善のヒントとして活用している。

### 京都橋大学（文学部）

- PROGスコアの伸長が大きい学生のうち、学科教員から見ても成長が著しい学生を選定し、**成長要因を探るインタビュー調査**を実施。日頃の授業や課外活動でのエピソードも挙げられたが、成長要因として**最も多く挙げられたエピソードはゼミでの経験・活動**だった。
- 上記エピソードから、各教員がゼミで行っている「**学生の能力育成に効果的な工夫**」を可視化し、教育改善に活用すべく**学部FD研修会**で共有。

### 京都光華女子大学（短期大学部 ライフデザイン学科）

- 1年次にコンピテンシーが低い学生が、その後コンピテンシーが伸びにくい現状を改善するため、**レベル1からコンピテンシーが伸長した学生**を対象にインタビュー調査を実施。
- インタビューの結果、「自らの意見に教員・学生からポジティブなフィードバックを受ける」や「フォロワータイプの学生がリーダーを経験する」が効果的であることが分かり、**ポジティブフィードバックを重視するワークシートとピア評価の導入、チーム編成方針の変更(フォロワータイプ同士のチーム)**を行った。

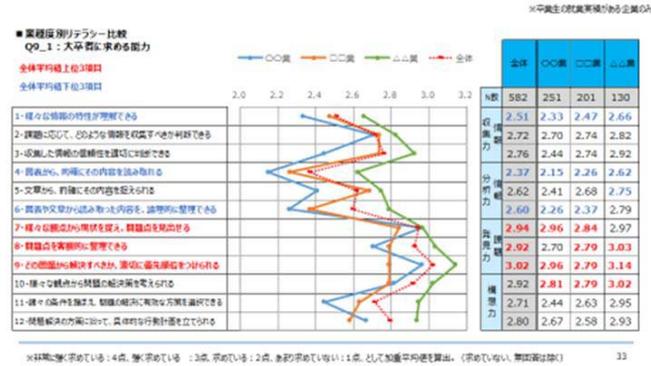
## 卒業後調査を活用した 学修成果の可視化・IRの事例

※実際の分析事例を基に、一部データを加工して掲載しています。

## ①企業調査事例

### Q9\_1.必要度（業種別比較）：リテラシー

- ✓ 全体で見ると、リテラシー12項目中必要度が高いのは3項目とも「情報見込み力」の「9. どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる」であり、次いで「7. 様々な観点から現状を捉え、問題点を見いだせる」、「8. 問題点を客観的に整理できる」であった。
- ✓ 業種別に見ると、動物病院で最も必要度が高いのは「9. どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる」であった。



#### 【A大学卒業後調査(企業調査)】

大学のDPIに掲げている能力を細分化し、設問設計。

業種ごとに、「新卒段階で求める能力」や「卒業生の評価」を集計。

社会が自学に期待する教育ニーズを明らかにし、現在のディプロマポリシーや教育カリキュラムと照らしながら、

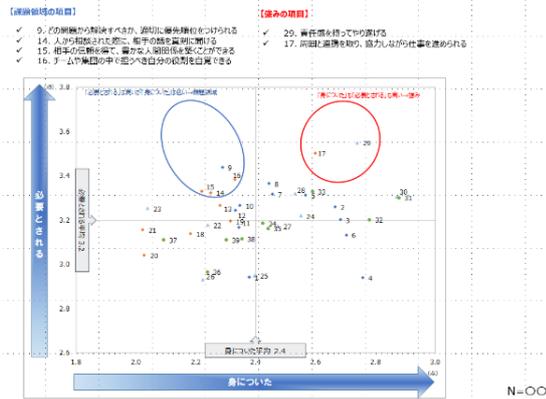
→ディプロマポリシー見直しやカリキュラムの中で育成する必要性を示すエビデンスとして活用

31

## ②卒業生調査事例

### ポートフォリオ分析 修得度×必要度

全体



#### 【B大学卒業後調査(卒業生調査)】

大学のDPIに掲げている能力を細分化し、

設問設計。卒業後の年度別に、「社会(職場)で必要とされている能力」と「大学で身に付いた能力」を

それぞれ必要度、修得度として分析。必要度と修得度がともに高い赤枠の領域は卒業生が感じている

「貴学の強みの領域の可能性」、青枠の領域は必要度が高いものの、卒業生の修得度が低い。

「貴学としての課題とも考えられる領域」の項目を明らかにし、

→カリキュラムを再考・アセスメントポリシーの修正に向けたエビデンスとして活用

32

## 主な支援ラインナップ①

### ジェネリックスキル測定 PROG

【活用場面】 内部質保証、学修成果の可視化、各ポリシー検証、IR



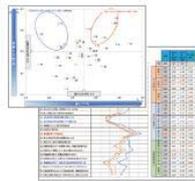
- ・河合塾とリアセツが共同開発したジェネリックスキルアセスメントプログラム
- ・専攻・専門を問わない、社会で求められる汎用的能力・態度・志向=ジェネリックスキル (リテラシーとコンピテンシーの2つの観点)を測定、育成

受験実績：年間 約300大学 約20万名  
2012年4月～2020年8月 全国国公立大学・短期大学 累計100万名以上 ※特許登録済



### 卒業生調査 / 企業調査 / 在校生調査

【活用場面】 内部質保証、学修成果の可視化、各ポリシー検証、IR



#### 卒業生調査

- ・卒業生に対して、大学での学びが現在の職場でどのように活かしているか、また、現在活躍している卒業生は、在学時にどのような学びをしていたか等を調査。

#### 企業調査

- ・卒業生が正規社員(職員)として雇用されている企業に対して、卒業生および大学に求める知識、能力、期待、イメージ等について調査。

#### 在校生調査

- ・入学時、在学中、卒業時等、大学の課題に応じて設問を設計し調査。  
(設問例：大学満足度、成長実感、各種学修の取り組み姿勢等)

33

## 主な支援ラインナップ②

### 主体性開発メソッド タクナル

【活用場面】 ジェネリックスキル開発、アクティブラーニング、PBL、キャリア教育



- ・「議論を通じて問題解決力を伸ばす」アクティブラーニング型授業用教材
- ・大学1～4年生の初年次科目やキャリア科目などで、教員が学生向けテキストだけで、楽しい議論から徐々に難易度が高まるケーススタディPBL (Project Based Learning)が実施可能
- ・教員向け授業進行用マニュアル、事前講師養成研修もご用意
- ・2015年リリース。年間実績(2018年度)23校 5,000名受講

### 職業興味検査 R-CAP

【活用場面】 就職支援(自己PR、志望動機)、キャリア教育



- ・社会人2万人のデータベースと比較した、本人の興味関心志向を測定し進路選択、就職活動準備をサポートするキャリアアセスメントプログラム
- ・高校生から社会人まで対応するR-CAPシリーズ  
：R-CAP / R-CAP for teens / R-CAP strength / R-CAP for business
- ・1998年リリース。全国累計約250万人受検 (2019年9月末時点)

※特許登録済



その他、入学前教育、初年次教育、キャリア科目での正課教育の企画・運営・実施  
就職支援事業(講座、個別相談業務)の企画・運営・実施  
(実績)「大手企業100%」、「内定率100%」など成果コミット型の就活支援プログラムなど

34



# 東京基督教大学

## 2021年度 学生による授業評価アンケート 実施記録

- a. 対象科目：全科目（一部の実習科目を省く）
- b. 回答期間：各学期、授業の最終週から期末試験終了の1週間後まで
- c. 回答方法：TCU オンライン
- d. 記名式：無記名（性別 学年 専攻のみ記入）
- e. 質問項目：  
回答の選択肢(「履修した動機」以外の質問)  
そう思う  
どちらかと言えばそう思う  
どちらとも言えない  
あまりそう思わない  
そう思わない
  1. 授業のわかりやすさ
    - a. この授業では到達目標が明確に示されていた
    - b. 授業内容のレベル（難易度）は適切だった
  2. 授業の進め方
    - a. 時間配分など、先生の授業の進め方は適切だった
    - b. 先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた
    - c. 授業で課される課題の量は適切だった
    - d. 先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮していた
  3. 先生の態度・対応
    - a. 学生からの質問・提出した課題等に対して、先生から適切なフィードバックがあった
    - b. この授業に対する先生の熱意を感じた
  4. 学生の動機
    - a. この授業を履修した動機は何ですか？  
(回答の選択肢) 単位を取りたいから、時間があったから、将来に役立つから、先輩に勧められたから、必修だから、シラバスを読んで興味をもったから、〇〇先生が担当しているから、その他
  5. 学生の理解
    - a. この授業の内容を理解できた
    - b. シラバスに書かれているこの授業の到達目標を達成できた
  6. 学生の興味
    - a. この授業の分野について、興味・関心が湧いた
    - b. この授業を後輩にも勧めたいと思う
  7. 学生（自分自身）の態度・対応
    - a. 授業中に積極的に質問や意見を発言した
    - b. 授業時間があっという間に過ぎるように感じた

- c. この授業の予習や復習に十分な時間をかけた
  - d. この授業を受けて満足した
8. 自由記述
- a. この授業を履修して良かったと感じる点をお書きください
  - b. この授業をより魅力的にするために、具体的な改善策（環境、教材、課題、進め方の工夫等）を提案してください

(英語版)

Answers (Except for question #9, 18, and 19)

- I agree
- I moderately agree
- No opinion
- I moderately disagree
- I disagree

Questions

1. The goal of the course was clearly stated.
2. The level of difficulty of this course was appropriate.
3. The pace and time allocation of class was appropriate.
4. The instructor checked students' understanding as he/she taught.
5. The amount of assignments was appropriate.
6. The instructor made it comfortable for students to ask questions and share comments.
7. The instructor gave appropriate feedback for students' questions and assignments.
8. The instructor was passionate about the lesson content.
9. What were your motivations to take the course?
  - a. To earn credits
  - b. I had time.
  - c. It will benefit my future.
  - d. My senior(s) recommended the course.
  - e. It was a compulsory course.
  - f. I was interested in the course when I read the syllabus.
  - g. The instructor is \_\_\_\_\_ sensei.
10. I understood the lectures.
11. I achieved the goals of the course stated in the syllabus.
12. My interest in the academic discipline of the course increased.
13. I would recommend this course to others.
14. I actively asked questions and shared my comments in the class.
15. I felt that time flew by during the class.
16. I spent enough time preparing and reviewing the course (outside the classroom).
17. I was satisfied with this course.
18. What were the best aspects of this course?
19. How could this class be improved? Please provide concrete examples (Class environment, Lecture Materials, Assignments, etc.)

# 東京基督教大学

## 2021年度 教員による授業相互評価 実施記録

- a. 対象教員：専任教員
- b. 相互評価パートナー：互いに了解した二者、または学部長へ一任
- c. 評価項目：
1. シラバスの活用（わかりやすいか・理解できるか、沿っているか）
  2. 担当教員の指導（声や話し方、教科書・教材は効果的か、教具は有効に使用されているか）
  3. 担当教員の態度（時間の遵守、熱意、準備されているか）
  4. 担当教員の対応（質問に適切に応えているか、時間配分など）
  5. 担当教員の前年度の自己評価に基づき改善が見られたか。  
(<https://acoffice.jp/tcihp/KgApp> から授業者を検索し、「教育活動の自己評価と目標設定」「教育活動の改善目標」を確認してください。)
  6. 良い点を具体的に記述してください。
  7. 改善が見込まれる点を具体的に記述してください。

(英語版)

1. Usage of the syllabus (comprehensibility, consistency with the class content)
2. Teaching skills (voice tone , speech, effectiveness of material, textbook and equipments)
3. Teaching attitude (punctuality, enthusiasm, preparation)
4. Respondence (Properness of the answer to questions, time allocation etc.)
5. Improvement from the previous year's self-evaluation.  
(<https://acoffice.jp/tcihp/KgApp>)
6. Write down the good points specifically.
7. Write down the specific points that can be improved.

# 東京基督教大学

## 2021 年度第 2 回ファカルティフォーラム

# 紀要合評会

日時 : 12 月 14 日(火) 15:50-18:00

会場 : zoom

Date: Tuesday, Dec 14 Time: 15:50-18:00

Place: zoom

Program: Article/thesis review from TCU Journal "Christ and the World" No.31

「心の論理 — 初期改革派正統主義における感情の分析」

発表者 デイビッド・S・サイツマ先生

講評者 須藤英幸先生

「フィリップ・ロス・フォックスウェルによるオーラル・ヒストリーの翻訳と解説 – 日本宣教 30 年をふりかえって –」

発表者 岩田三枝子先生

講評者 山口陽一先生

『キリストと世界』第 31 号掲載のサイツマ先生と岩田先生の論文を事前に読んでご参加ください。また、当日『キリストと世界』をお持ちくださいますようお願いいたします。

ファカルティーディベロップメント委員会  
TCU Faculty Development Committee

2021年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告

---

2022年9月1日 発行

編集・発行 東京基督教大学  
〒270-1347 千葉県印西市内野3-301-5  
電 話 (0476)46-1131  
FAX (0476)46-1405  
<http://www.tci.ac.jp/>

---

印刷・キクラ印刷(株)  
©東京基督教大学2022年

